

令和8年度第1回松阪地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

○ 令和8年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿	.. P 1
○ 松阪地域高等学校活性化推進協議会設置要綱	.. P 2
○【資料1】令和7年度松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要	.. P 3
○【資料2】松阪地域の県立高等学校について(令和8年度)	.. P 7
○【資料3】松阪地域の県立高等学校(全日制)の入学者選抜の状況	.. P 16
○【資料4】松阪地域の中学校卒業生進路先の推移	.. P 17
○【資料5】令和8年度の協議について	.. P 18
○【資料6】松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について	.. P 19
○【資料7】令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議のまとめ	.. P 27
○【資料8】松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)	.. P 31
○【資料9】松阪地域の中学校卒業生数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移と予測	.. P 32
○【資料10】松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度)	.. P 33
○【資料11】松阪地域の全日制高校の学びの配置状況(令和8年度)	.. P 34
○【資料12】松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和8年3月卒)	.. P 35
○【資料13】県立高等学校(全日制)への通学時間の目安	.. P 36
○【資料14】松阪地域の県立高等学校(全日制)への交通手段等	.. P 37
○【資料15】学校規模と教育環境について	.. P 39
○【資料16】令和22年度までの松阪地域の県立高等学校(全日制)の総学級数について	.. P 41
○【資料17】松阪地域の県立高校(全日制)の再編について	.. P 42
○【資料18】今後の松阪地域における高等学校の学びと配置のあり方について	.. P 43

令和８年度 松阪地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

N o		所属及び名前	新・継
1	学識経験者	三重大学 地域イノベーション学研究科 准教授 水木 千春	継続
2	地域有識者	松阪商工会議所 事務局長 井村 彰	継続
3		多気町商工会 事務局長 高橋 勝利	継続
4		大台町商工会 事務局長 上岡 万紀子	継続
5	市町教育委員会教育長	松阪市教育委員会 教育長 中田 雅喜	継続
6		多気町教育委員会 教育長 小林 真一	継続
7		明和町教育委員会 教育長 森井 義和	新規
8		大台町教育委員会 教育長 福岡 佳久	継続
9	県立高等学校長代表	県立松阪高等学校 校長 柘植 三治	新規
10	小中学校長代表	松阪市立殿町中学校 校長 尾崎 充	継続
11	小中学校ＰＴＡ代表	松阪市ＰＴＡ連合会 代表 森本 悠揮	新規
12		多気郡ＰＴＡ連合会 代表 堀川 真澄	新規
13	高等学校ＰＴＡ代表	松阪地区高等学校ＰＴＡ連合会 代表 鈴木 寛子	新規
14	小中学校教職員代表	松阪市立山室山小学校 教諭 西川 弘規	新規
15	高等学校教職員代表	県立松阪商業高等学校 教諭 高橋 春生	新規

松阪地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、松阪地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、松阪地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の松阪地域全体における県立高等学校の在り方に関すること
- (2) 松阪地域の県立高等学校活性化の方策に関すること
- (3) 施設・設備に関すること
- (4) その他検討を要すること

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は令和5年 1月18日から施行する。

令和 7 年度第 1 回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和 7 年 9 月 3 0 日（火曜日） 1 8 時 3 0 分から 2 0 時 3 0 分まで

2 場所 三重県松阪庁舎 大会議室

3 概要

松阪地域の県立高校の総学級数が、現在の 1 学年 2 5 学級から、1 5 年先には 1 0 ～ 1 3 学級程度となることが見込まれる中、「令和 4 ～ 6 年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ」をふまえ、令和 1 0 ～ 1 1 年度に想定される、合わせて 5 学級程度の学級減への対応の方向性について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

（学校規模について）

- 普通科高校や専門高校など選択肢があっても、小規模校では教員数が少ないことにより学びに制約が生じるのであれば、一定の規模がある高校に普通科と専門学科の両方を設置し、多様な学びができる環境をつくることも考えられるのではないかと。また、一定の規模があれば、子どもたちが重視する部活動のニーズに応えることもできる。（川端委員）
- アンケートで多くの生徒や保護者が高校を選ぶうえで重視することとして回答した「学びたい学科やコースがある」ことを実現するためには、教員数を確保する観点からも、ある程度の学校規模がないと難しい。つらい選択になるが、通学時間も考慮しつつ、学科の枠を超えて学びを集約しながら、子どもたちの希望に応じていく必要がある。（井村委員）
- 教員数の確保に課題があるものの、1 学級の定員を減らし、学級数を確保することで、生徒や保護者の多様なニーズに応えることができるのではないかと。そのためにも引き続き、県から国に対して学級編制基準の引き下げの要望を続けるなど、県と国が連携していくことが大切である。（山際委員）
- 松阪市の中学校卒業生の一定数が市外へ進学している現状があり、当地域の高校の魅力を高める必要がある。学校規模だけでなく、抜本的に松阪地域の学びをどうしていくのかの議論を進めたい。（中田委員）
- 県立普通科に関しては、当地域の高校は 2 校だが、今後私立高校への進学者が増えることが懸念される。（尾崎委員）
- 専門性の高い教員を配置するには、大学進学へのニーズに応える普通科系の高校は 6 学級以上、専門高校においても 4 ～ 5 学級は必要と感じる。中学校における部活動の地域展開や、3 5 人学級の導入が高校においても進められるのかも注視しながら、県立学園高校を含む松阪地域の高校全体のあり方を検討する必要がある。（小林委員）
- 各市町において小中学校の統合が進んでいるのは少子化の影響だけではなく、津波対策や校舎の老朽化も背景となっている。県立高校についても、伊勢志摩地域との再

編も見据え、校舎の老朽化の状況と今後の建て直しの見通しを示してもらえると、議論が進みやすいのではないかと。(下村委員)

- かつて勤務した小規模校では、1 学年 3 学級から 2 学級へと減少する中で、生徒が充実した高校生活を送り、希望する進路が実現できるよう努力を重ねたが、教員数が減ることで学校運営が厳しくなり、現在は 1 学級となっている。こうした状況が訪れる前に、早期に方向性を打ち出していくことも必要ではないか。(井ノ口委員)

(学びのあり方について)

- 既存の学科にとらわれず、普通科で工業や商業について学べたり、機械科に在籍しながら経営について学べたりするような多様性のある学びができる高校があってもよいのではないかと。また、授業料無償化が進み高校教育がほぼ義務教育化していく中で、子どもたちが希望する高校で学べるよう、入学者選抜のあり方も検討しつつ、学びの多様化学校のような高校を新たに作っていく必要があるのではないかと。(中田委員)
- 昂学園高校は、地域の方や小中学生と双方の活性化をめざしてともに学びあい、交流を進めており、同校の存続を願うものの、今後の生徒減を考えると簡単ではないことも理解している。各高校の活性化に向けた取り組み状況を共有しながら、15 年先を見据えつつ、ある程度イメージが可能なスパンで考えていくことも必要ではないかと。(福岡委員)
- 増加傾向にある不登校生徒や外国籍の生徒は、私立の通信制高校に進学することが多くなっているが、高校卒業後の進路選択に必要な力の育成に関しては、気がかりな部分がある。国籍の多様化や年度途中での転入も課題となる中、県立高校においても外国籍の生徒の学びの場について検討してもらいたい。(尾崎委員)
- 地元就職や定住につなげる観点から、例えば週に 3 日は学校で学び、残りの 2 日は地元企業で実習するような学科があってもよいのではないかと。(清水委員)
- 少人数だからこそ輝く子どもたちは、普遍的に在るのではないかと。高校に送り出す側として、そうした高校がこの地域にあってほしい。(山際委員)
- 高校現場では、将来の学校の存続について不安を抱えつつも、子どもたちに精一杯の学びを提供しようと努力している。今後生徒数が減少したとしても、そのときの子どもたちにとってよりよい学びを実現するという思いを持ち続けたい。(富安委員)
- 総合専門高校や、全日制と定時制、通信制の 3 つの課程を行き来できる愛知県のフレキシブルハイスクールなど、他地域や他府県の先進事例を参考にして検討を進めてはどうか。(井ノ口委員)
- 小学生の保護者は高校のことには関心を持ちにくいと、高校再編が最も影響を及ぼす年代となることが考えられる。こうした世代の保護者に対する情報提供や、高校のあり方について一緒に考える機会を増やしていくことが大切ではないかと。(川端委員)

令和7年度第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会の概要

1 日時 令和8年2月18日（水曜日）18時30分から20時35分まで

2 場所 三重県松阪庁舎 大会議室

3 概要

松阪地域の県立高校の総学級数が、現在の1学年25学級から、15年先には10～13学級程度となることが見込まれる中、「県立高等学校活性化計画」や「令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ」をふまえ、令和10～11年度に想定される合わせて5学級程度の学級減への対応の方向性について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

（学校規模について）

○ 進学ニーズに応える高校については、1学年あたり6学級を下回らないことが望ましいと具体的な規模が明示されているが、部活動の活性化の観点から一定規模の学級数を維持とは、具体的にどれくらいの学級数をイメージしているのか。（川端委員）

⇒（事務局）ニーズは見てとれる一方で、再掲資料12から、学校規模に関わらず部活動に対する4学級以上と3学級以下で部活動の設置数や部活動あたりの登録者数に大きな差があることが見てとれることから、他地域では4学級以上が望ましいととりまとめられた。

⇒当地域の方針にも具体的な学級数を記載することとしたい。（水木会長）

○ 学級数がほぼ半減する15年先にあっても、生徒の学びの多様性を確保するため、選択肢を残すべきである。現在ある普通科、職業系専門学科、総合学科といった分類は維持すべきではないか。（高橋委員）

○ まずは、令和11年度までの5学級減への具体的な対応を考える必要がある。当面は各校1学級ずつ減らし、できる限り学校数を維持する考え方もあるが、総学級数がさらに大幅に減少する令和11年度以降は、施設の老朽化の状況もふまえた抜本的な再編が必要になるのではないかと。（福岡委員）

○ 学校規模を確保するために地域の高校を集約すると通学が不便になるので、各校一定の割合で学級減を行って学校数を維持していくほうがよいのではないかと。（積木委員）

○ 小中学校では35人学級の導入が進んでいる。前回、高校では1学級の定員は40人であるという話題があったが、今後の見通しを教えてください。（尾崎委員）

⇒（事務局）国に対して学級編制基準の引き下げについて継続的に要望しているが、実現には至っていないのが現状である。

（学びのあり方について）

○ 小中高が連携したキャリア教育に取り組むことが大切とあるが、具体的な取組があれば教えてください。（清水委員）

⇒（事務局）例えば、いくつかの県立高校では、近隣小中学校への出前授業を通じた連携に取り組んでいる。高校生がロールモデルとなり、小中学生が将来像を具体的に描くキャリア教育の場となっている。

- 私立高校への進学者が一定数いることを前提に、15年先の学級数が予測されている。もっと県立高校の魅力を積極的にPRし、県立高校のニーズを高めることで、学級減を抑えられれば、今ある学びが維持できるのではないかと。（小林委員・上岡委員）
- 少子化が進む中であっても、それぞれの学校が持つ機能や特色をしっかりと分担していくことが重要である。例えば、県内唯一となる連携型中高一貫教育校である飯南高校における中高の教員交流は、互いの生徒の実態を把握した上で安心して指導できることから非常にメリットは大きい。（中田委員：熊野代理）
- 地域の特色ある高校は維持していきたいが、そのためには卒業後も生徒が地域に定着できる環境を自治体が努力してつくっていく必要があると感じる。また、校舎の耐用年数を考えると、今後5年を目途に、存続させる高校と再編する高校を明確に示せるよう、計画的に検討を進める必要がある。（下村委員）
- 近年の農業科や水産科は、生産者の育成に留まらず、加工・商品開発・起業までを学ぶ場へと進化している。地元の産業を生かして多様な学びができる学科づくりができるとよい。（下村委員）
- 現在の学校数を維持したまま学級減で対応するのは、教育活動への影響が大きく現実的ではない。徐々に小規模化して閉校していくというのではなく、松阪工業高校と松阪商業高校を総合専門高校へ再編するなど、先を見通した方針を早期に打ち出すべきではないか。（井ノ口委員）

（通学について）

- 他地域の協議会のまとめでは、通学時間を概ね90分以内、できれば60分以内と具体的に記載している。当地域のアンケート調査でも同様の傾向が見られることから、通学時間の基準を明記してはどうか。（川端委員）
- 通学環境については、所要時間だけでなく、バスや鉄道の発着時刻や運行本数なども考慮する必要があるから、表現を見直す必要がある。（井ノ口委員）
- 松阪市内の中学校は、沿岸部の旧松阪市内から山間部の飯南・飯高地区まで広範囲に立地している。地元の学校がなくなれば、通学方法や時間に影響が生じることもふまえて再編を検討する必要がある。（尾崎委員）
- 松阪地域は非常に広域であるため、学校の統廃合に伴って通学時間が長くなりすぎると、高校への進学自体を断念する生徒が出るのが懸念される。（中田委員：熊野代理）
- 地域の中学校卒業者数の減少のみを理由に再編を進めるのではなく、公共交通機関の利便性など、通学時間だけでは計れない通学環境が厳しい生徒の学びの選択肢を確保してほしい。（富安委員）
- 松阪市外にある相可高校と昴学園高校については、通学距離の観点から存続すべきであると考えているが、どのような学科・学級数にするかはさらなる議論が必要となる。（井ノ口委員）

（今後の進め方について）

- 今年度協議した「学びと配置のあり方」を基に、当地域が広域であるがゆえに生じる通学環境の課題を考慮しつつ、特色ある学びをどのように配置していくかを中心に、次年度引き続き具体的な再編の方向性について協議したい。（水木会長）

松阪地域の県立高等学校について（令和 8 年度）

1 全日制課程

- ・ 松阪高校 (松阪市) 普通科(200)、理数科(80)
- ・ 松阪工業高校 (松阪市) 工業化学科(40)、機械科(40)、繊維デザイン科(40)、
自動車科(40)、電気工学科(40)
- ・ 松阪商業高校 (松阪市) 総合ビジネス科(120)、国際ビジネス科(40)
- ・ 飯南高校 (松阪市) 総合学科(80)
- ・ 相可高校 (多気町) 普通科(80)、生産経済科(40)、環境創造科(40)、
食物調理科(40)
- ・ 昂学園高校 (大台町) 総合学科(80)

2 定時制課程

- ・ 松阪工業高校 (松阪市) 普通科(40)

3 通信制課程

- ・ 松阪高校 (松阪市) 普通科(200)

○ 課程

- ・ 全日制：通常の時間帯において授業を行う課程
- ・ 定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程
- ・ 通信制：通信による教育を行う課程

○ 学科

- ・ 普通科：普通教育を主とする学科
※普通科、普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科
(学際領域に関する学科、地域社会に関する学科など)
- ・ 専門学科：専門教育を主とする学科
【職業系】農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、情報科、福祉科
など職業教育を主とする学科
【普通科系】理数科、体育科、音楽科、美術科、外国語科、国際関係科など職業系
以外の専門教育を施す学科
- ・ 総合学科：普通教育及び専門教育を選択履修の旨として総合的に施す学科

令和 8 年度 松阪高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○時代の変化に対応し社会に貢献できる人材を輩出する、地域から信頼される進学校

< 自主自律 >

校訓である「自主自律」の精神を持ち、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。

< 知・徳・体 >

校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、地域社会の中心的な担い手となる人を育てます。

< 高い志 >

心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。

2 学校の特色 （理数科 2 学級＋普通科 5 学級）

松阪市民から「南高(ナンコウ)」または「松高(マツコウ)」と呼ばれ、親しまれている歴史と伝統のある学校です。充実した学習指導と的確な進路指導のもとで自己実現に必要な力を養うことができ、「自主自律」の校訓のもと、学校行事や部活動にも一生懸命に取り組むことができる、文武両道の充実した学校です。

『松高力』で夢を現実に！！

【文部科学省 SSH（スーパー・サイエンス・ハイスクール）指定校】

SSH の指定を受け、時代のニーズに対応した、「国際舞台で通用する課題探究能力育成プログラム」の開発を教育課程に位置付けて行っています。普通科・理数科の生徒全員を対象に「探究活動」を行い、生徒自らが設定したテーマをとことん追究する中で、一人ひとりが、高い志を持ち、さまざまな課題に対して自ら考え挑戦し、未来を切り拓くことができる力＝松高力（①課題解決能力 ②情報活用能力 ③コミュニケーション能力 ④挑戦する力）を育成しています。新しい大学入試では「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」が求められており、本校では SSH での取組で探究する力を育成し、この力を各教科で生かすことで、新しい大学入試のありようにしっかりと対応しています。

【理数科】

学問をより深く追求するための創造力・探究心を養い、科学的思考力を持った人間性豊かな人材を育てます。そのために、より幅広く興味と関心を持ち、将来めざす学問について考える機会となるように、講演会や大学・研究施設の見学会、大学の研究室訪問を実施しています。土曜日は課外授業を実施しています。また、1・2 年生は夏休みに夏期研修があります。

【普通科】

基礎的な学習をとおして幅広い学力を獲得し、人間性豊かで知性溢れる人材を育てます。全学年にわたり、夏休みや放課後の課外学習などを充実させ、きめ細かい指導を行うことで学力の向上を図っています。多様な学びをベースにして、自己実現を的確に支援するキャリア教育により、夢に向かう目的意識とそれを実現する確かな学力を養います。また、希望者には土曜課外授業を実施しています。

令和 8 年度 松阪高校（通信制）の特色

1 めざす学校像

○生徒一人ひとりの学びを支援し、生徒・保護者・地域から信頼される通信制高校
 ＜自主自律＞

校訓である「自主自律」の精神を持ち、自学自習をとおして、自ら学び、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。

＜知・徳・体＞

校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、それぞれの立場で地域社会に貢献できる人を育てます。

＜高い志＞

心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。

2 学校の特色 （普通科 定員 200 名）

Design Your Own Dream ～あなたの夢を描こう～

●通信制ってどんなところ？

- ・働きながら自分のペースで学習できます。
- ・さまざまな年代の方が入学し、卒業を目指しています。
- ・授業は月 2 回程度の日曜日のスクーリングです。基本的には自宅で学習します。
- ・転編入生は、前に在籍していた高校の修得単位が一定の条件で認められます。
- ・学ぶ年数は 4 年間です。頑張り次第で 3 年間での卒業も可能です。

●いつでも！どこでも！だれでも！

自学自習が基本なので、自分のペースで勉強できます。また、スクーリング以外の平日でも学校で勉強したり、先生から直接アドバイスをもらったり、電話やメールでの質問も可能です。

学ぶことに遅いということはありません。年齢に関係なく誰でも学ぶことができます。

●学習システム

- ・報告課題(レポート)・・・レポートを提出し、先生から添削指導を受けて学習を進めます。
- ・面接授業(スクーリング)・・・登校日は月 2 回程度(日曜日)
- ・テスト・・・各科目年 3 回
- ・特別活動・・・学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動など 年 10 時間以上

【松高通信の主な学校行事】

学校行事等への積極的な参加を促して、学校生活の充実を図り、学習意欲の向上に結びつけています。遠足、体育祭、南伊勢地域でのフィールドワーク、生活体験発表会、定通交流スポーツ大会、卒業生を送る会などがあります。

令和 8 年度 松阪工業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- これからの社会に必要とされる資質・能力を高め、地域で活躍する人材を育成する学校
- 専門学科における知識、技術の習得や高度な資格の取得に取り組むとともに、それらを実践的に活用できる人材を育成する学校

2 学校の特色（工業化学科、機械科、繊維デザイン科、自動車科、電気工学科各 1 学級）

- グラデュエーション・ポリシー
 - 自ら考え、判断・決定し、行動する力を身につけた生徒。
 - 基礎・基本を大切にし、自分を律しながら学び続ける生徒
 - 他者と協働しながら、目標に向かって粘り強く挑戦する生徒
- 明治 35（1902）年に工業学校として開校し、校舎の特徴から「赤壁（せきへき）」と呼ばれ多くの人に親しまれる、120 年を越える歴史ある学校です。
- 学科別に専門性の高い学習を進め、3 年生では課題研究や卒業制作に取組みます。近年は、学科の枠を超えて、学びを統合した課題研究等にも挑戦しています。1 2 月には繊維デザイン科卒業制作展、1 月には 4 科（工業化学科、機械科、自動車科、電気工学科）が成果発表会で、課題研究や学習の成果を発表します。
- 進路としては工業化学科、機械科、自動車科、電気工学は就職が多く、繊維デザイン科は進学が多いです。
- 令和 6 年度からは DX ハイスクールとしてデジタル人材の育成に取り組んでいます。

（1）各科の特色

《工業化学科》「素材」の視点から「ものづくり」に必要な化学的知識・スキルの学習とともに、「環境」問題の改善に関する知識・技術や考え方等についても学習します。危険物取扱者や毒物劇物取扱責任者などの資格も取得します。【中・南部学区唯一の学科】

《機械科》「ものづくり」の基礎となる機械の設計・制作から、NC 工作機械やロボットを中心とした各種自動化システムまで、広範囲な内容を学習します。二級ボイラー技士や各種三級技能士など現場で役立つ資格を取得します。

《繊維デザイン科》デザインについて、「デザイン思考」をはじめ「ものづくりの原点」として幅広く学びます。卒業後は進学する生徒も多く、美術・芸術大学への進学もサポートします。業界や地域社会からデザイン依頼も多くあります。【県内唯一の学科】

《自動車科》「一種自動車整備士養成施設」として国土交通省から指定を受けており、学科試験だけで三級自動車整備士（総合）の資格を取得することが出来ます。溶接やパソコンなど自動車に関わる機械・電気系の資格も取得します。【中・南部学区唯一の学科】

《電気工学科》電力の発生から輸送、応用技術や情報技術など幅広い電気・電子工学の分野を基礎から応用まで学習します。難関資格「第 3 種電気主任技術者」をはじめ資格取得にも積極的に挑戦しています。資格を利用し、地元国立大学や有名私立大学にも進学しています。

（2）部活動

県の強化指定を受けているバレーボール部をはじめレスリング部、野球部、バスケットボール部などの運動部、工業高校ならではのロボット部やソーラーカー部、工業化学研究部など生徒の興味関心に応える 26 の部が活動しています。

令和 8 年度 松阪工業高校（定時制）の特色

1 めざす学校像

多様な教育的ニーズに対応し、地域とともにある学校

2 学校の特色（普通科 1 学級）

【グラデュエーション・ポリシー】

- 人生を切り拓くために必要な知識と技能を身につけ、学び続ける生徒
- 自己肯定感を高め社会に参加する生徒
- 多様性を理解し相手の立場を尊重しながら協働する生徒

【カリキュラム・ポリシー】

I 学び続ける力の育成

- 授業では基礎基本を大切にし、個に応じた指導を充実させる。
- キャリア教育を充実させ、多様な選択肢の中から進路を決定する力を育成する。

II 自己肯定感と社会に参画する力の育成

- 生活体験発表等の特別活動を通して、主体的に生きる力を育み自己肯定感を高める。
- 通級指導や日本語指導等により、社会に参画し将来活躍できる学習活動を推進する。

III 協働する力の育成

- 「総合的な探究の時間」で、主体的に学びに向かう態度を身につけさせる教育活動を推進する。
- 学校行事等により、規範意識を高め、幅広い視野とコミュニケーション能力を向上させる。

【その他特徴】

- (1) 働きながら学べる夜間定時制として昭和 23（1948）年に設置され、多くの卒業生が社会で活躍しています。
- (2) 17 時 30 分から 20 時 55 分（月曜日は 21 時 30 分）までの 1 日 4 限授業の普通科単位制です。
- (3) 通信制との併修により 3 年間で卒業することもできます。
- (4) 卒業後の進路は就職が多いですが、四年制大学に進学する生徒もいます。
- (5) 生徒の半数以上が外国につながるのある生徒です。国籍の異なる生徒が、お互いを認め合い、協力しながら一緒に学んでいます。
- (6) 日本語の習得に対して、外国人生徒支援員・通訳の配置や習熟度別授業の実施、日本語能力検定へのサポートなどきめ細かな指導を行っています。
- (7) 通級指導として、「自立活動」を希望者は履修できるようにしており、学習や生活上の困難の改善・克服を目指し、生徒一人ひとりの特性に応じたきめ細かな支援を実施しています。
- (8) 関係諸機関や専門的外部人材とも連携し、個々の生徒に応じた支援を実施しています。

令和 8 年度 松阪商業高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

「社会の変化に対応し、確かな学びと挑戦を進め、地域から求められ続ける学校」

- ・商業高校ならではの専門性と先進的な学びを生かし、地域に存在する課題を捉え、他者と協働し、解決に向けて主体的に行動できる生徒を育成する。

2 学校の特色（総合ビジネス科 3 学級＋国際ビジネス科 1 学級）

(1) 探究・キャリア教育の一体化

探究活動を 1～3 年次の学び全体に位置付け、地域と連携した学びを通して進路実現に必要な資質・能力を育成している。高校卒業後に進学する生徒は 65% であり、就職希望者の 100% が地元企業の事務職等に就職している。

(2) 単位制を生かした個別最適な学び

単位制の特性を生かし、少人数・習熟度別指導を実施することで、生徒一人ひとりの学習状況や進路希望に応じた柔軟な教育課程を展開している。

(3) 勤勉かつ活発な生徒像

部活動加入率が高く活気がある。また、ビジネスの基礎となる挨拶・礼儀・マナー等について、日常の学校生活を通して定着を図っている。

3 学科の特徴

(1) 総合ビジネス科＝「商業の知識・技術を習得し、地域社会で活躍できる人材の育成」

- ・マーケティング・会計・情報の分野を幅広く学び、商業・情報に関する専門性の向上を図っている。
- ・簿記、情報処理、商業経済などの商業系検定、IT パスポート、基本情報技術者試験などの国家試験の取得を目指している。

(2) 国際ビジネス科＝「商業の知識を基に、グローバル社会で活躍できる人材の育成」

- ・商業・情報の専門性に加え、実践的な英語力と異文化理解を強化している。
- ・英検準 2 級～2 級以上の取得を目指す講座を開設するとともに、簿記、ビジネス文書、情報処理検定（ビジネス情報）等にも挑戦できる学習環境を整えている。

4 特徴的な学び

(1) 地域と連携した探究活動の授業

商業科目「課題研究」の授業では、7つのカテゴリーに分かれた研究班ごとに、地域に存在する課題に向き合い、企業・自治体・関係機関と協働して課題解決に向けた提言を行う実践的な研究を展開している。探究活動の授業を通して、「解決に向けて自分で考える力」や「他者と協働しながら行動する力」などを育んでいる。

(2) DX ハイスクール事業を活用した先進的な学び

生成 AI・メタバース等のデジタルツールを学習活動に取り入れ、情報活用能力・課題解決能力の育成を図っている。

(3) 国際教育の推進

台湾姉妹校との交流や海外語学研修を通して、多文化理解と国際的視野を育成している。また、外国につながる生徒への日本語指導に係る学校設定科目を設けるなど、支援体制の充実を図っている。

令和 8 年度 飯南高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 地域とともに、自分らしくたくましく「生きる力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を育成する学校

2 学校の特色（総合学科 2 学級）

(1) 育みたい生徒像

- 学習、部活動、学校行事に積極的に取り組み、「生きる力」（対話力・追究力・創造力・発信力）を身につけた生徒
- 地域と連携した活動に積極的に参加し、自分らしさを発揮して地域や周囲の人の役に立てることを自己の喜びと感じられる生徒

(2) 学習環境

- 学校は櫛田川の上流、まわりを緑に囲まれたすばらしい環境の中にあります。杉と檜が林立する「並木道」とカエデ属の落葉樹「ハナノキ」は飯南高校のシンボルです。
- 平成 11 年に全国初の連携型中高一貫教育を導入するとともに、普通科から総合学科に改編しました。生徒が自分の個性を活かした夢を育み、「好きなこと」を究め、未来を創るサポートをします。

(3) 探究的な学び・キャリア教育

- 「産業社会と人間（1 年次）」、「キャリアデザイン（2 年次）」、「いいなんゼミ（3 年次、総合的な探究の時間）」を軸に、各系列の学びを生かし、「地域を学び場とした探究活動」を充実させています。
- 地域と連携したキャリア教育を通じて「生きる力」を育みます。

(4) 少人数教育

- 80 人の定員を 3 学級に編成し、生徒へのきめ細かなサポートを行っています。また、総合学科の特色を生かし、70 あまりの講座を設けることにより、自分の興味・関心に合った学習ができます。
- 地元の専門家や大学教授など、多くの特別講師が授業を担当しています。いろいろな分野のスペシャリストや地域の方々から学ぶことで、一人ひとりの個性をさらに伸ばすことをめざしています。

(5) 総合学科＝「普通科」×「専門学科」

- 1 年次は基礎を幅広く学びながら将来について考え、2 年次から自分の学びたい系列に分かれて専門的に学んでいきます。
- 「郷土・環境」「介護福祉」「総合進学」「コンピュータ」の 4 つの系列を用意し、多様な学びのニーズに対応しています。高校に入ってから自分の将来をじっくり考え、専門的に学びたいという人にぴったりの学科です。

◎生徒一人ひとりの「挑戦」を丁寧にサポートするため、飯南高校での 3 年間は大きく成長できる時間です。卒業後の進路実現に向けた支援、学力向上、求人開拓、職場定着等への取組は、生徒や保護者、地域の方々から大きな信頼を得ています。

令和 8 年度 相可高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒の夢をかなえる学校
- 地域と共に歩む学校
- 教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校

2 学校の特色

（普通科 2 学級＋生産経済科 1 学級＋環境創造科 1 学級＋食物調理科 1 学級）

（1）4 つの学科

< 普通科 >

単位制、少人数講座、習熟度別授業を取り入れ、併設する専門学科とともに探究し刺激しあう、他校に類を見ない環境のもと、国公立・私立の大学、短期大学、専門学校への進学や就職など、さまざまな進路に対応しています。

< 生産経済科 >

農産物生産の基礎・基本とその流通、園芸福祉、環境問題を学び、地域農業をはじめとする、地域産業の発展を担う産業人の育成をめざします。

< 環境創造科 >

生活の基礎を支える「街づくり」と「国土安全」を基本としながら、人々が自然と共生していくための循環型社会の形成を目標に、新たな環境を創造していくことができる技術者を養成します。毎年、約 85～90% の生徒が公務員として就職し、国の省庁や地方自治体で活躍しています。

< 食物調理科 >

調理師コースと製菓コースとがあり、校内での実習の他、国内外における研修やインターンシップなど、数々の経験を重ね、高い技術と意識を併せ持つことで、グローバル、グローバルな場で活躍できるプロフェッショナルをめざします。

（2）キャリア教育、探究学習の充実

- 相可高校では、「総合的な探究の時間」を「ドリーム・チャレンジング・タイム

（D C T）」と呼び、1 年生は学年全員で学科を越えた少人数グループを作り、課題と向き合っ、考えたり調べたりして自分の意見を出し、また、他者の意見を聞くことで出てきた情報を整理し、グループでまとめた意見を発表します。4 つの学科の生徒が入り混じっていることで、さまざまな価値観から学ぶことができ、視野が広がります。

探究学習は、各教科の学習の中でも進められますが、普通科では、2，3 年生でも引き続き「D C T」を学習し、専門学科では、2 年生以降、「課題研究」等の専門科目でそれぞれの学科に応じた専門性を追究し、グローバルやグローバルな活動をめざします。

- 通常、高校で出会う大人といえば、ほとんどが教員だと考えられますが、相可高校では、「D C T」学習時の外部講師をはじめ、各学科が連携する地域や企業の方々、出前講座で来校する大学教員、調理クラブの実習施設「まごの店」や製菓コースの販売実習のお客様、など、たくさんの方々と関わるができます。このように、学校中で生きたキャリア教育を日々実践しています。

令和 8 年度 相可高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

- 生徒の夢をかなえる学校
- 地域と共に歩む学校
- 教職員がやりがいを実感し互いに高めあう学校

2 学校の特色

（普通科 2 学級＋生産経済科 1 学級＋環境創造科 1 学級＋食物調理科 1 学級）

（1）4 つの学科

< 普通科 >

単位制、少人数講座、習熟度別授業を取り入れ、併設する専門学科とともに探究し刺激しあう、他校に類を見ない環境のもと、国公立・私立の大学、短期大学、専門学校への進学や就職など、さまざまな進路に対応しています。

< 生産経済科 >

農産物生産の基礎・基本とその流通、園芸福祉、環境問題を学び、地域農業をはじめとする、地域産業の発展を担う産業人の育成をめざします。

< 環境創造科 >

生活の基礎を支える「街づくり」と「国土安全」を基本としながら、人々が自然と共生していくための循環型社会の形成を目標に、新たな環境を創造していくことができる技術者を養成します。毎年、約 85～90% の生徒が公務員として就職し、国の省庁や地方自治体で活躍しています。

< 食物調理科 >

調理師コースと製菓コースとがあり、校内での実習の他、国内外における研修やインターンシップなど、数々の経験を重ね、高い技術と意識を併せ持つことで、グローバル、グローバルな場で活躍できるプロフェッショナルをめざします。

（2）キャリア教育、探究学習の充実

○相可高校では、「総合的な探究の時間」を「ドリーム・チャレンジング・タイム

（D C T）」と呼び、1 年生は学年全員で学科を越えた少人数グループを作り、課題と向き合って、考えたり調べたりして自分の意見を出し、また、他者の意見を聞くことで出てきた情報を整理し、グループでまとめた意見を発表します。4 つの学科の生徒が入り混じっていることで、さまざまな価値観から学ぶことができ、視野が広がります。

探究学習は、各教科の学習の中でも進められますが、普通科では、2，3 年生でも引き続き「D C T」を学習し、専門学科では、2 年生以降、「課題研究」等の専門科目でそれぞれの学科に応じた専門性を追究し、グローバルやグローバルな活動をめざします。

○通常、高校で出会う大人といえば、ほとんどが教員だと考えられますが、相可高校では、「D C T」学習時の外部講師をはじめ、各学科が連携する地域や企業の方々、出前講座で来校する大学教員、調理クラブの実習施設「まごの店」や製菓コースの販売実習のお客様、など、たくさんの方々と関わるができます。このように、学校中で生きたキャリア教育を日々実践しています。

令和 8 年度 昴学園高校（全日制）の特色

1 めざす学校像

○総合学科、全寮制等の特色を生かして以下の人材育成や学校づくりをめざしています。

- ・卒業後に社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成
- ・何事も誠実・意欲的に取り組み、思いやりを持って人と接することができる人材の育成
- ・地域（ユネスコエコパークである「大台町」）との連携を深め、地域から信頼されとともに、地域から必要とされる人材の育成

2 学校の特色 （総合学科 2 学級）

（1）総合学科（単位制、90 分授業、少人数制＜全学年 3 クラス 1 クラス約 25 名＞）

1 年次は共通の科目を履修し、自分の適性や進路について考えます。2 年次以降は 5 系列に分かれ、興味・関心のあることを学び、進路実現につなげます。

＜地域探究系列＞

ヒト・モノ・コトがつながるまち“大台町”をフィールドに、探究活動を通じて、『答えのない問いに挑み続ける力』を育み、VUCA（先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態）時代を切り拓いていく人材を育成します。

＜総合スポーツ系列＞

生涯スポーツにつながるニュースポーツや野外活動等の理論・実践を通じて、知識と技術を身に付け、様々なスポーツの指導者等として活躍できる人材を育成します。

＜美術工芸系列＞

絵画・デザイン・立体造形等を基礎から学び、自分の表現の可能性を追求しながら、美術工芸で社会をより豊かにする力を育成します。

＜生活福祉系列＞

福祉全般の知識・技能を学び、高齢者を含めた、誰もが住みやすい社会を創造することができる人材を育成します。

＜環境技術系列＞

野菜作り・木材加工・林業保全に関わる学習を行い、持続可能な資源とは何かを、校外学習や講師を交えながら学び、自発的な人材を育成します。

（2）生徒寮「きらら」

県内外各地から集まった同世代の若者が集団生活を行うことで、自主性・自律性・協調性などを育みながら個性と能力の伸長を図っています。

（3）地域みらい留学&地域高 2 留学実施校

都道府県の枠を越えて、県外から入学してきた生徒とともに、様々な立場や世代の人たちと交流しながら地域について深く学ぶなど、充実した高校 3 年間を送ることができます。

（4）大台町（ユネスコエコパークに認定）との連携

地域とともにある開かれた学校づくりを進めています。

（5）国際教育

韓国養正高等学校と姉妹提携をしており、授業でハングル語を学ぶこともでき、国際感覚を育てます。

昴学園高校は、「大台町」の豊かな自然のなかで、寮（全寮制、但し大台町・大紀町・多気町の生徒は自宅からの通学も可能）での集団生活と総合学科、少人数教育、さらには地域（大台町）と結びついた活動を通じて、生徒の自主性・自律性・協調性などを育みながら個性と能力を伸ばすことを目標にしています。

松阪地域の県立高等学校（全日制）の入学者選抜の状況

資料 3

(1) 令和8年3月卒・現高1

学校名	学科・コース	入学 定員	R7.12時点の 進学希望者数		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
松 阪	普通	200	124	▲ 76	-	-	-	-	200	162	0.81	200	-	-	-	201	0
	理数	80	184	104	40	187	4.68	41	39	98	2.51	39	-	-	-	80	0
	学校計	280	308	28	40	187	4.68	41	239	260	1.09	239	-	-	-	281	0
松阪工業	機械	40	47	7	20	44	2.20	22	18	19	1.06	18	-	-	-	40	0
	電気工学	40	52	12	20	51	2.55	22	18	26	1.44	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	43	3	20	41	2.05	22	18	23	1.28	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	56	16	40	56	1.40	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	自動車	40	47	7	20	47	2.35	22	18	17	0.94	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	245	45	120	239	1.99	128	72	85	1.18	72	-	-	-	200	0
松阪商業	総合ビジネス科	120	128	8	60	129	2.15	66	54	51	0.94	52	2	0	0	118	▲ 2
	国際ビジネス科	40	46	6	20	41	2.05	22	18	20	1.11	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	174	14	80	170	2.13	88	72	71	0.99	70	2	0	0	158	▲ 2
飯 南	総合学科	80	63	▲ 17	40	46	1.15	58	22	4	0.18	4	18	1	1	63	▲ 17
	学校計	80	63	▲ 17	40	62	1.15	58	22	4	0.18	4	18	1	1	63	▲ 17
相 可	普通	80	67	▲ 13	24	65	2.71	27	53	43	0.81	44	9	0	0	71	▲ 9
	生産経済	40	41	1	20	40	2.00	22	18	19	1.06	18	-	-	-	41	0
	環境創造	40	39	▲ 1	20	38	1.90	22	18	19	1.06	18	-	-	-	40	0
	食物調理	40	49	9	40	48	1.20	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	学校計	200	196	▲ 4	104	191	1.84	111	89	81	0.91	80	9	0	0	192	▲ 9
昂学園	総合学科	80	34	▲ 46	80	56	0.70	56	-	-	-	-	24	0	0	56	▲ 24
	学校計	80	34	▲ 46	80	56	0.70	56	-	-	-	-	24	0	0	56	▲ 24
松阪地域（全日制）計		1,000	1,020	20	464	889	1.92	482	494	501	1.01	465	53	1	1	950	▲ 52

※「R7.12時点の進学希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。
※入学者数と合格者数の合計が一致しないことがあるのは追検査による合格者等を含むため

(2) 令和7年3月卒・現高2

学校名	学科・コース	入学 定員	R6.12時点の 進学希望者数		前期選抜等				後期選抜				再募集			入学者数	欠員
			定員との差	募集定員	志願者数	志願倍率	合格内定者数	募集定員	志願者数	志願倍率	合格者数	募集定員	志願者数	合格者数			
松 阪	普通	200	163	▲ 37	-	-	-	-	200	157	0.79	200	-	-	-	200	0
	理数	80	186	106	40	189	4.73	40	40	125	3.13	40	-	-	-	80	0
	学校計	280	349	69	40	189	4.73	40	240	282	1.18	240	-	-	-	280	0
松阪工業	機械	40	48	8	20	47	2.35	22	18	24	1.33	18	-	-	-	40	0
	電気工学	40	32	▲ 8	20	29	1.45	22	18	12	0.67	18	-	-	-	40	0
	工業化学	40	34	▲ 6	20	40	2.00	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	繊維デザイン	40	56	16	40	54	1.35	40	-	-	-	-	-	-	-	40	0
	自動車	40	66	26	20	61	3.05	22	18	20	1.11	18	-	-	-	40	0
	学校計	200	236	36	120	231	1.93	128	72	74	1.03	72	-	-	-	200	0
松阪商業	総合ビジネス科	120	115	▲ 5	60	116	1.93	66	54	58	1.07	54	-	-	-	120	0
	国際ビジネス科	40	32	▲ 8	20	34	1.70	22	18	18	1.00	18	-	-	-	40	0
	学校計	160	147	▲ 13	80	150	1.88	88	72	76	1.06	72	-	-	-	160	0
飯 南	総合学科	80	72	▲ 8	40	60	1.50	59	21	24	1.14	21	-	-	-	80	0
	学校計	80	72	▲ 8	40	75	1.50	59	21	24	1.14	21	0	0	0	80	0
相 可	普通	80	102	22	24	92	3.83	27	53	64	1.21	53	-	-	-	80	0
	生産経済	40	46	6	20	43	2.15	22	18	23	1.28	18	-	-	-	40	0
	環境創造	40	57	17	20	53	2.65	22	18	22	1.22	18	-	-	-	40	0
	食物調理	40	41	1	40	39	0.98	39	-	-	-	-	1	2	1	40	0
	学校計	200	246	46	104	227	2.18	110	89	109	1.22	89	1	2	1	200	0
昂学園	総合学科	80	29	▲ 51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲ 5
	学校計	80	29	▲ 51	80	75	0.94	75	-	-	-	-	5	0	0	75	▲ 5
松阪地域（全日制）計		1,000	1,079	79	464	932	2.01	500	494	565	1.14	494	6	2	1	995	▲ 5

※入学者数と合格者の合計が一致しないことがあるのは、追検査による合格者等を含むため
※「R6.12時点の進学希望者数」は、県内の国公立中学校3年生を対象に実施した調査結果による。

松阪地域の中学校卒業生進路先の推移

資料 4

(1)松阪地域(1市3町)の状況

市町	卒 業 年 度	卒 業 者 数	松阪地域(全日制)										地域内 合 計 ①	地域外(全日制)				地域外 合 計 ②	その他 合 計 ③	合 計 (①+②+③)
			県立高校								私立高校			伊勢 志摩 地域 県立	津 地 域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立、 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計									
1 市 3 町 の 合 計	7年度 (R8.3卒)	1,811	225 12.4%	148 8.2%	111 6.1%	63 3.5%	129 7.1%	19 1.0%	695 38.4%	324	324 17.9%	1,019 56.3%	145 8.0%	219 12.1%	199 11.0%	52 2.9%	615 34.0%	177 9.8%	1,811 100.0%	
	6年度 (R7.3卒)	1,879	222 11.8%	137 7.3%	115 6.1%	79 4.2%	144 7.7%	8 0.4%	705 37.5%	314	314 16.7%	1,019 54.2%	141 7.5%	243 12.9%	218 11.6%	44 2.3%	646 34.4%	214 11.4%	1,879 100.0%	
	5年度 (R6.3卒)	1,856	207 11.2%	151 8.1%	104 5.6%	80 4.3%	130 7.0%	14 0.8%	686 37.0%	307	307 16.5%	993 53.5%	140 7.5%	264 14.2%	219 11.8%	42 2.3%	665 35.8%	198 10.7%	1,856 100.0%	

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高専への進学者数

※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

(2)市町別の状況

	卒業 年度	卒業 者数	松阪地域(全日制)										地域内 合計 ①	地域外(全日制)				地域外 合計 ②	その他 合計 ③	合計 (①+②+③)
			県立高校							私立高校				伊勢 志摩 地域 県立	津 地域 県立	県内 私立・ 高専	その他 県立、 県外			
			松阪	松工	松商	飯南	相可	昂学園	県立 小計	三重	私立 小計									
松 阪 市	7年度 (R8.3卒)	1,390	172 12.4%	122 8.8%	83 6.0%	54 3.9%	81 5.8%	3 0.2%	515 37.1%	275	275 19.8%	790 56.8%	68 4.9%	205 14.7%	135 9.7%	42 3.0%	450 32.4%	150 10.8%	1,390 100.0%	
	6年度 (R7.3卒)	1,446	176 12.2%	110 7.6%	89 6.2%	61 4.2%	94 6.5%	1 0.1%	531 36.7%	265	265 18.3%	796 55.0%	69 4.8%	224 15.5%	151 10.4%	36 2.5%	480 33.2%	170 11.8%	1,446 100.0%	
	5年度 (R6.3卒)	1,467	170 11.6%	127 8.7%	81 5.5%	66 4.5%	83 5.7%	2 0.1%	529 36.1%	280	280 19.1%	809 55.1%	62 4.2%	241 16.4%	151 10.3%	36 2.5%	490 33.4%	168 11.5%	1,467 100.0%	
多 気 町	7年度 (R8.3卒)	156	28 17.9%	7 4.5%	7 4.5%	9 5.8%	33 21.2%	1 0.6%	85 54.5%	13	13 8.3%	98 62.8%	18 11.5%	2 1.3%	18 11.5%	3 1.9%	41 26.3%	17 10.9%	156 100.0%	
	6年度 (R7.3卒)	176	22 12.5%	9 5.1%	10 5.7%	18 10.2%	29 16.5%	0 0.0%	88 50.0%	22	22 12.5%	110 62.5%	14 8.0%	10 5.7%	26 14.8%	3 1.7%	53 30.1%	13 7.4%	176 100.0%	
	5年度 (R6.3卒)	148	16 10.8%	9 6.1%	4 2.7%	14 9.5%	34 23.0%	3 2.0%	80 54.1%	13	13 8.8%	93 62.8%	19 12.8%	5 3.4%	14 9.5%	5 3.4%	43 29.1%	12 8.1%	148 100.0%	
明 和 町	7年度 (R8.3卒)	196	17 8.7%	16 8.2%	18 9.2%	0 0.0%	4 2.0%	0 0.0%	55 28.1%	22	22 11.2%	77 39.3%	56 28.6%	11 5.6%	38 19.4%	7 3.6%	112 57.1%	7 3.6%	196 100.0%	
	6年度 (R7.3卒)	198	17 8.6%	14 7.1%	12 6.1%	0 0.0%	9 4.5%	1 0.5%	53 26.8%	16	16 8.1%	69 34.8%	53 26.8%	9 4.5%	36 18.2%	2 1.0%	100 50.5%	29 14.6%	198 100.0%	
	5年度 (R6.3卒)	191	15 7.9%	12 6.3%	12 6.3%	0 0.0%	4 2.1%	1 0.5%	44 23.0%	10	10 5.2%	54 28.3%	54 28.3%	17 8.9%	48 25.1%	1 0.5%	120 62.8%	17 8.9%	191 100.0%	
大 台 町	7年度 (R8.3卒)	69	8 11.6%	3 4.3%	3 4.3%	0 0.0%	11 15.9%	15 21.7%	40 58.0%	14	14 20.3%	54 78.3%	3 4.3%	1 1.4%	8 11.6%	0 0.0%	12 17.4%	3 4.3%	69 100.0%	
	6年度 (R7.3卒)	59	7 11.9%	4 6.8%	4 6.8%	0 0.0%	12 20.3%	6 10.2%	33 55.9%	11	11 18.6%	44 74.6%	5 8.5%	0 0.0%	5 8.5%	3 5.1%	13 22.0%	2 3.4%	59 100.0%	
	5年度 (R6.3卒)	50	6 12.0%	3 6.0%	7 14.0%	0 0.0%	9 18.0%	8 16.0%	33 66.0%	4	4 8.0%	37 74.0%	5 10.0%	1 2.0%	6 12.0%	0 0.0%	12 24.0%	1 2.0%	50 100.0%	

※地域外：松阪地域の全日制高校(県立・私立)以外の高校・高専への進学者数

※その他：定時制高校、通信制高校、特別支援学校、各種学校への進学及び就職等の数

令和8年度の協議について

1 これまでの協議

- 当協議会は、令和4年度に設置され、令和7年度までに計8回協議会を開催し、松阪地域における県立高校の学びと配置について協議してきました。
- 令和6年度には、地域の中学生と保護者を対象としたアンケート調査の結果もふまえ、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先を見据えた協議を進めました。その中で、令和4年度からの協議を整理するとともに、令和11年度までに当地域の1学年あたりの総学級数が5学級程度減少し、20学級程度となることが見込まれることから、当協議会の方向性を「令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議の小まとめ～今後の学びと配置のあり方について～」としてとりまとめました。
- 令和7年度は、これまでの協議をふまえて検討を行い、「学びと配置のあり方の方針」として整理しました。

2 令和8年度の協議の進め方

現計画の計画期間が令和4年度から8年度までとなっていることから、三重県教育委員会の附属機関である三重県教育改革推進会議において、次期計画の策定に向けた審議が始まっており、今年度中にとりまとめる予定となっています。こうした動きも注視しながら、引き続き、15年先を見据えた高校の学びと配置のあり方について協議を進めます。

また、令和10年度から11年度にかけて見込まれる5学級程度の学級減への対応の方向性について協議を進め、「学びと配置のあり方の方針」に基づき、中学生が高校を選択する時期もふまえ、今年の12月までに当協議会としての方向性を取りまとめることとします。

3 今後の協議会開催スケジュール（令和8年度）

- (1) 第1回協議会（令和8年7月7日）
 - ・松阪地域の高等学校を取り巻く状況について
 - ・令和10年度から11年度にかけて見込まれる学級減への対応の方向性の協議①
- (2) 第2回協議会（令和8年9月頃）
 - ・令和10年度から11年度にかけて見込まれる学級減への対応の方向性の協議②
 - ・「令和8年度のまとめ（案）」の提示
- (3) 第3回協議会（令和8年11月頃）
 - ・「令和8年度まとめ」策定

松阪地域の県立高校に関するアンケート結果について

1 生徒を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること（問 6）

「通学のしやすさ・距離」（49.3%）、「学校の雰囲気・イメージ」（49.0%）に続いて、「文化祭や体育祭などの学校行事が充実している」（42.4%）、「学びたい学科やコースがある」（39.5%）、「入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている」（35.7%）の順となっている。

(2) 高校に期待する教育（問 8）

高等学校には、「自ら学び続ける力が身につく教育」（52.6%）、「基本的な知識が身につく教育」（43.1%）をはじめ、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育」（42.0%）、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」（40.1%）を期待している。

(3) 希望する学級数について（問 10）

多い順に「4～6 学級」（42.1%）、「2～3 学級」（36.3%）、「1 学級」（18.0%）、続いて「7 学級以上」（3.7%）となっている。

(4) 通学時間について（問 11）

多い順に「60 分以内まで」（51.1%）、「30 分以内まで」（28.9%）、「90 分以内まで」（13.5%）、「120 分以内まで」（4.1%）、「121 分以上」（2.3%）となっている。

(5) 将来就きたい仕事について（問 12）

「まだ決まっていない、わからない」（40.4%）が多く、「健康・スポーツ関係（インストラクター、選手・監督など）」（13.9%）、「医師、看護師、薬剤師など」（11.4%）と「理容、美容関係」（11.4%）と続いている。

(6) 将来生活する場所について（問 14）

「まだ決まっていない、わからない」（32.5%）が最も多く、続いて、「県外」（20.6%）、「一度は地元を離れても、いつかは戻りたい」（18.7%）、「地元（現在住んでいる市町）」（12.3%）となっている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

(1) 高校選びで重視すること（問6）

「学びたい学科やコースがあること」(73.3%)に続いて、「通学のしやすさ・距離」(64.4%)、「自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できること」(59.4%)に続いて、「進学・就職の実績」(39.5%)、「確かな学力を身につける授業が充実していること」(39.2%)、となっている。

(2) 高校に期待する教育（問8）

「自ら学び続ける力が身につく教育」(61.0%)をはじめ、「社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育」(60.7%)、「自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育」(53.6%)、「多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育」(49.0%)を期待している。

(3) 希望する学級数について（問10）

多い順に「4～6学級」(45.4%)、「2～3学級」(36.9%)、「1学級」(11.9%)、続いて「7学級以上」(5.8%)となっている。

(4) 通学時間について（問11）

多い順に「60分以内まで」(66.4%)、「30分以内まで」(24.1%)、「90分以内まで」(8.3%)、「120分以内まで」(0.9%)、「121分以上」(0.2%)となっている。

(5) 将来生活する場所について（問12）

「本人の希望次第」(71.2%)が最も多く、続いて、「地元(現在住んでいる市町)」(9.1%)、「一度は地元を離れても、いつかは戻ってほしい」(6.8%)となっている。

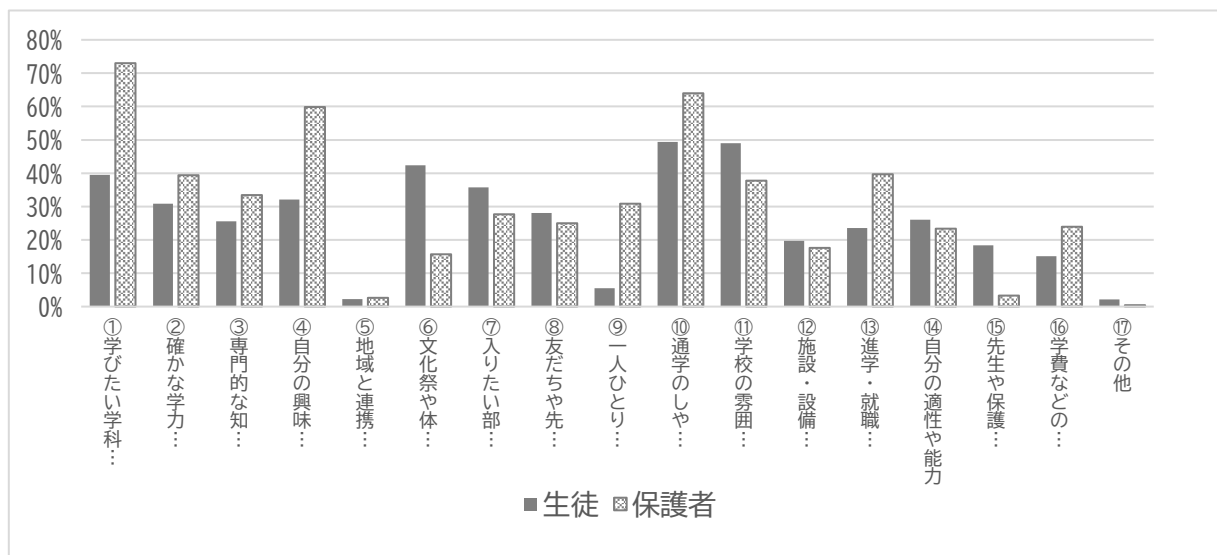
(6) 今後の松阪地域の県立高校のあり方について（問13）

今後の松阪地域の高校については、「一定の統合は避けられない」(68.4%)が最も多く、続いて「統合は避けるべき」(27.0%)、「積極的に統合を進めるべき」(4.5%)となっている。

3 生徒と保護者の回答の比較

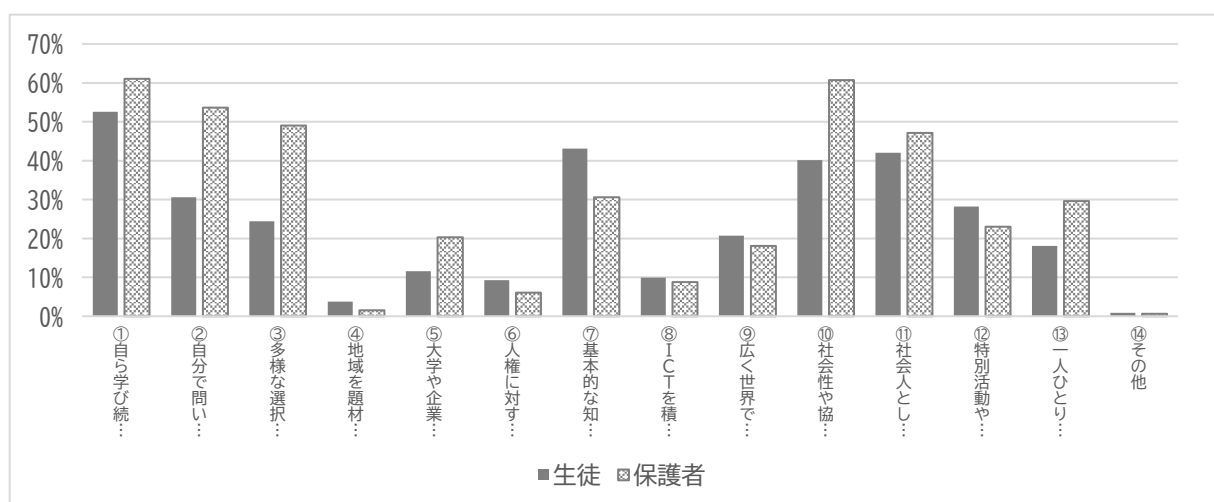
(1) 高校選びで重視すること (回答は6つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
① 学びたい学科やコースがある	④	576	39.5%	①1,357	73.3%
② 確かな学力を身につける授業が充実している	⑦	450	30.8%	⑤ 725	39.2%
③ 専門的な知識や技能、資格が習得できる	⑩	373	25.6%	⑦ 615	33.2%
④ 自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる	⑥	468	32.1%	③1,100	59.4%
⑤ 地域と連携した活動が充実している	⑬	33	2.3%	⑬ 51	2.8%
⑥ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	③	618	42.4%	⑭ 294	15.9%
⑦ 入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている	⑤	521	35.7%	⑨ 522	28.2%
⑧ 友だちや先輩、先生などとの多くの出会い	⑧	409	28.0%	⑩ 461	24.9%
⑨ 一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる	⑮	81	5.6%	⑧ 589	31.8%
⑩ 通学のしやすさ・距離	①	720	49.3%	②1,192	64.4%
⑪ 学校の雰囲気・イメージ	②	715	49.0%	⑥ 708	38.2%
⑫ 施設・設備の充実	⑫	288	19.7%	⑬ 310	16.7%
⑬ 進学・就職の実績	⑪	344	23.6%	④ 731	39.5%
⑭ 自分の適性や能力	⑨	380	26.0%	⑫ 434	23.4%
⑮ 先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見	⑬	268	18.4%	⑮ 63	3.4%
⑯ 学費などの経費負担	⑭	220	15.1%	⑪ 444	24.0%
⑰ その他	⑰	31	2.1%	⑰ 11	0.6%



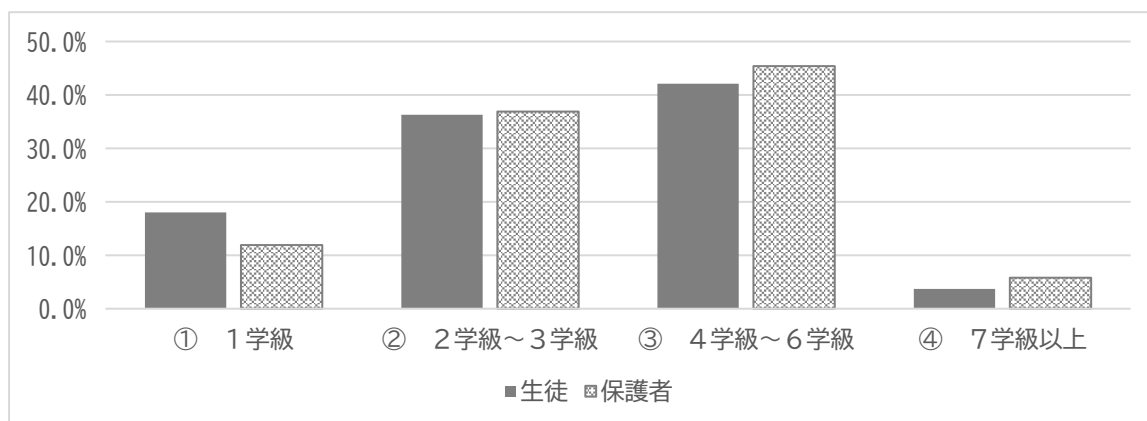
(2) 高校に期待する教育 (回答は5つ以内、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象		生徒 (1,459人)		保護者 (1,851人)	
① 自ら学び続ける力が身につく教育	①	767	52.6%	①	1,129	61.0%
② 自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育	⑤	447	30.6%	②	993	53.6%
③ 多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育	⑦	356	24.4%	④	907	49.0%
④ 地域を題材として学ぶ教育	⑬	56	3.8%	⑬	28	1.5%
⑤ 大学や企業等と連携・協働して学ぶ教育	⑩	169	11.6%	⑨	376	20.3%
⑥ 人権に対する意識が高まる教育	⑫	135	9.3%	⑫	113	6.1%
⑦ 基本的な知識が身につく教育	②	629	43.1%	⑥	567	30.6%
⑧ ICTを積極的に活用する教育	⑪	145	9.9%	⑪	163	8.8%
⑨ 広く世界で活躍できる力が身につく教育	⑧	302	20.7%	⑩	335	18.1%
⑩ 社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育	④	585	40.1%	②	1,123	60.7%
⑪ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育	③	613	42.0%	⑤	871	47.1%
⑫ 特別活動や部活動などを通じて豊かな人間性が身につく教育	⑥	411	28.2%	⑧	426	23.0%
⑬ 一人ひとりの状況に応じて適切な支援が受けられる教育	⑨	264	18.1%	⑦	548	29.6%
⑭ その他	⑭	13	0.9%	⑭	11	0.6%



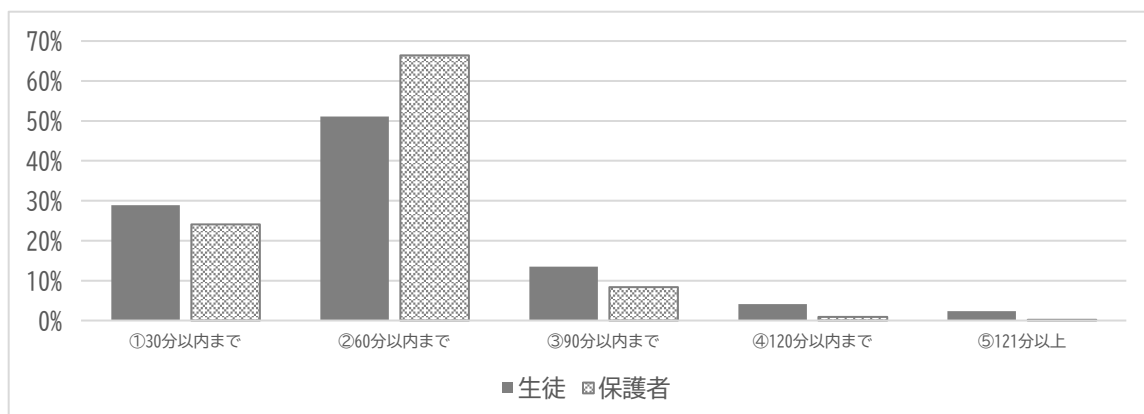
(3) 1学年あたりの学級数 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,852人)	
		人数	割合	人数	割合
① 1学級 (40人)		③ 262	18.0%	③ 220	11.9%
② 2学級～3学級 (80人～120人)		② 529	36.3%	② 684	36.9%
③ 4学級～6学級 (160人～240人)		① 614	42.1%	① 841	45.4%
④ 7学級以上 (280人～)		④ 54	3.7%	④ 107	5.8%



(4) 進学したい高校までの通学時間 (回答は1つ、%は各回答者数に対する割合、○数字は多い順)

項目	対象	生徒 (1,459人)		保護者 (1,850人)	
		人数	割合	人数	割合
① 30分以内まで		② 422	28.9%	② 446	24.1%
② 60分以内まで		① 746	51.1%	① 1,229	66.4%
③ 90分以内まで		③ 197	13.5%	③ 154	8.3%
④ 120分以内まで		④ 60	4.1%	④ 17	0.9%
⑤ 121分以上		⑤ 34	2.3%	⑤ 4	0.2%



4 生徒と保護者の回答の比較より

(1)「高校選びで重視すること(17個の選択肢から6つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両方で各上位6つに選択された項目のうち、共通するもの

①学びたい学科やコースがある

生徒4位 576人(39.5%)、保護者1位 1,357人(73.3%)

④自分の興味関心に応じて多様な学びが選択できる

生徒6位 468人(32.1%)、保護者3位 1,100人(59.4%)

⑩通学のしやすさ・距離

生徒1位 720人(49.3%)、保護者2位 1,192人(64.4%)

⑪学校の雰囲気・イメージ

生徒2位 715人(49.0%)、保護者6位 708人(38.2%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位6つに選択された項目

②確かな学力を身につける授業が充実している

生徒7位 450人(30.8%)、保護者5位 725人(39.2%)

⑥文化祭や体育祭などの学校行事が充実している

生徒3位 618人(42.4%)、保護者14位 294人(15.9%)

⑦入りたい部活動がある、部活動が活発に行われている

生徒5位 521人(35.7%)、保護者9位 522人(28.2%)

⑬進学・就職の実績

生徒11位 344人(23.6%)、保護者4位 731人(39.5%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位2つ(その他を除く)に選択された項目

⑤地域と連携した活動が充実している

生徒16位 33人(2.3%)、保護者16位 51人(2.8%)

⑨一人ひとりの状況に応じて、きめ細かな教育が期待できる

生徒15位 81人(5.6%)、保護者8位 589人(31.8%)

⑮先生や保護者、友だち等の周囲の人の意見

生徒13位 268人(18.4%)、保護者15位 63人(3.4%)

(2)「高校に期待する教育(14個の選択肢から5つ以内で選択)」について

(ア) 生徒、保護者の両方で各上位5つに選択された項目のうち、共通するもの

①自ら学び続ける力が身につく教育

生徒1位 767人(52.6%)、保護者1位 1,129人(61.0%)

②自分で問いや課題を見つけ、主体的に取り組む力が身につく教育

生徒5位 447人(30.6%)、保護者2位 993人(53.6%)

⑩社会性や協調性、コミュニケーション能力など協働する力が身につく教育

生徒4位 585人(40.1%)、保護者2位 1,123人(60.7%)

⑪社会人として必要なマナーや礼儀・責任感が身につく教育

生徒3位 613人(42.0%)、保護者5位 871人(47.1%)

(イ) 生徒、保護者のどちらか一方で上位 5 つに選択された項目

③多様な選択肢の中から進路を決定する力が身につく教育

生徒 7 位 356 人 (24.4%)、保護者 4 位 907 人 (49.0%)

⑦基本的な知識が身につく教育

生徒 2 位 629 人 (43.1%)、保護者 6 位 567 人 (30.6%)

〈 参 考 〉

生徒、保護者で下位 2 つ(その他を除く)に選択された項目

④地域を題材として学ぶ教育

生徒 13 位 56 人 (3.8%)、保護者 13 位 28 人 (1.5%)

⑥人権に対する意識が高まる教育

生徒 12 位 135 人 (9.3%)、保護者 12 位 113 人 (6.1%)

(3) 「1 学年あたりの学級数 (1 つ選択)」について

生徒、保護者とも「4 ～ 6 学級」(生徒 42.1%、保護者 45.4%) と最も多く、次いで「2 ～ 3 学級」(生徒 36.3%、保護者 36.9%)、「1 学級」(生徒 18.0%、保護者 11.9%) と続いている。

(4) 「進学したい高校までの通学時間 (1 つ選択)」について

生徒、保護者とも「60 分以内まで」(生徒 51.1%、保護者 66.4%)、「30 分以内まで」(生徒 28.9%、保護者 24.1%) と続き、さらに「90 分以内まで」(生徒 13.5%、保護者 8.3%)、「120 分以内まで」(生徒 4.1%、保護者 0.9%) となっている。

令和4～6年度の松阪地域高等学校活性化推進協議会における協議のまとめ ～今後の学びと配置のあり方について～

1 これまでの経緯

- 本協議会は、「県立高等学校活性化計画（R4～R8）」（以下、「計画」という。）に基づき、松阪地域における高等学校の特色化・魅力化を図り、生徒にとって魅力ある学習環境を整備することを目的に、令和4年度に設置されました。
- 本協議会では、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、地域の県立高等学校を取り巻く状況や現状、今後の地域の少子化の進行、他地域の協議会での協議内容等の情報を共有しつつ、当地域の子どもたちにとっての最善の教育環境を実現することを第一に、子どもたちの人権や学びなどの視点も大切にしながら協議を進めてきました。
- 令和6年度は、今年度実施した地域の中学生と保護者へのアンケート結果もふまえながら、引き続き、松阪地域の県立高等学校の学びと配置のあり方について協議を継続しているところです。

【参考】「県立高等学校活性化計画」（令和4年3月策定）

「これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方」の概要

- ・これからの高等学校は、社会の変化をふまえ、持続可能な社会の創り手を育成することが求められており、そのため、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- ・3学級以下の小規模校活性化の検証結果、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にあるため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行う。これらのことについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議する。
- ・こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- ・1学年3学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- ・次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

2 松阪地域の状況

- 当地域には、私立高校や定時制課程、通信制課程を含め、普通科・普通科系専門学科、職業系専門学科、総合学科がバランスよく配置されており、6校ある県立高校（全日制）における令和7年度入学生の学級数は、普通科・普通科系専門学科9学級、職業系専門学科12学級、総合学科4学級の合計25学級となっています。
- 当地域の中学校卒業者の約3人に1人が、伊勢志摩地域や津地域などの地域外の全日制高校等へ進学するとともに、約6人に1人が当地域の私立高校へ進学している状況にあります。
- 当地域の中学校卒業者数は、令和7年3月の1,879人から、令和11年3月には1,586人（令和7年3月比293人減）となることが見込まれており、さらに令和21年3月には1,049人（令和7年3月比830人減）と減少傾向が続きます。

- このことから、当地域の1学年あたりの総学級数は、令和7年度入学生の25学級から、令和5年度に生まれた子どもたちが高校へ入学する令和21年度には11～14学級程度となることが見込まれています。

3 今後の学びと配置のあり方について

(基本的な考え方)

- 子どもたちには、夢や希望をかなえるため、自らの可能性を引き出し、あらゆる場面であきらめずにチャレンジする「未来を切り拓く力」や、コミュニケーション能力、課題解決能力に加え、問いを立てる力、あきらめずに困難に立ち向かう力を育てる必要があります。
- 地域を大切にする心や、地域を愛する心を育むための「地域に根差した学び」を推進する必要があります。
- 特別な支援が必要な生徒や外国につながる生徒、不登校の状況にある生徒などが増加傾向にあることから、多様な背景をもつ子どもたちの教育環境の整備を大切な視点の一つとして、協議を進めます。
- 急速に社会の変化が進む中、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材を育成するとともに、将来の松阪地域の担い手育成の視点から、小中学生に地元の高校から情報発信するなど、小中高が連携したキャリア教育に取り組むことが大切です。

(再編を検討するうえで大切にしたいこと)

① 学校規模について

- 高校の学びや配置のあり方を考えるうえでは、教員数の確保や多様な選択科目の開設、部活動の維持の視点から、学校規模が重要な要素となります。
- 多様な選択科目を開設するには、一定の教員数が必要であり、特に、進学ニーズに応える普通科高校については、専門性の高い教員を各科目に配置することが求められることから、1学年あたり8学級が望ましく、少なくとも6学級を下回らないよう学級数を維持する必要があります。
- 各学校においては、特色ある活動に取り組んだり、全国で活躍するチームや個人を輩出したりするなど、活発な部活動が行われており、地域の子どもたちへのアンケート結果からも、高校を選択するうえで、部活動が重視されています。こうしたニーズに応えるためには、一定の学校規模が必要であり、部活動の設置数や生徒の部活動への参加状況との相関から、部活動を維持・活性化する視点において1学年あたり4学級以上が望ましいと考えます。
- 現計画で統合の検討対象とされる3学級以下の高校については、学級減による教員数の減少が、教科指導や部活動など学校運営全体に影響を与えることが懸念されます。一方で、今年度実施した中学生と保護者へのアンケート結果では、3学級以下を希望する声もあることから、当地域の小規模校の教育実践や、他地域の協議会における小規模校のあり方にかかる議論を参考にしつつ、学級数と学校数のバランスに留意したうえで、再編について丁寧に議論する必要があります。

② 学びの選択肢について

- 現在、当地域の県立高校には、普通科・普通科系専門学科、職業系専門学科、総合学科がバランスよく設置されており、近隣地域との流入・流出状況や公立と私立のバランス等も意識しながら、地域全体を見通して、丁寧に議論する必要があります。

- 当地域の普通科・普通科系専門学科においては、多くの卒業生が高等教育機関への進路実現を果たしています。今後も、大学等への進学ニーズに応える教育環境を維持する必要があります。
- 当地域の専門高校には、農業、工業、商業、家庭の職業系専門学科が設置されており、卒業生の多くが地域の産業を支えていることから、これら専門学科の学びの選択肢を維持し、これから先も地域を支える人材を育成する必要があります。
- しかしながら、今後の生徒数の減少をふまえると、専門高校の統合も避けられない状況であり、現在の専門学科すべてを維持することは難しくなるため、異なる学科の生徒が協働して課題に取り組んだり、異なる学科の専門的な教科・科目を選択することを可能にしたりするなど、学科の枠を越えた連携も視野に入れながら、学びの集約化に関する議論を進める必要があります。
- 当地域では2校で総合学科が設置されており、それぞれで特色ある学びや、多様な生徒に対応する学びを展開しています。今後、生徒が減少していく中にある場合は、総合学科のあり方や活性化にかかる協議を進める必要があります。
- また、多様化するニーズにあわせた定時制課程や通信制課程を含めた県立高校の学びのあり方についても議論する必要があります。
- 現行の40人定員の学級編制基準を引き下げるとは、中学校卒業生数の減少にあっても総学級数の減少幅を抑えるとともに、子どもたちにとってのよりよい学習環境の整備や、教職員定数の確保等につながることから、県と連携した国への要望についても検討する必要があります。

4 今後の協議の進め方

- 当協議会では引き続き、現計画に基づき、令和5年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先に1学年あたりの総学級数が11～14学級程度まで減少していく途上にあるという視点をもって、これまで協議してきた内容をさらに深め、松阪地域全体を見通したこれからの高校の学びと配置のあり方を協議していきます。
- 協議にあたっては、近隣地域との流入・流出状況や地域の私立高校を含めた進学状況等もふまえ、学びの選択肢の維持や多様な子どもたちの進路が保たれるよう、課程（全日制・定時制・通信制）や学科の枠を越えて、総合的に考えていきます。
- 中学校卒業生数の減少に応じた学級減への対応方針の協議については、当地域で見込まれる総学級数の視点のみで考えるのではなく、多様な背景をもつ子どもたちを含め、当地域の子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育環境が提供されるよう、子どもたちのことを第一に考え、議論する必要があります。
- これらのことにより、松阪地域の子どもたちが、この地域の高校に通い、学んでみたいと思えるよう、また、松阪地域の将来を担う子どもたちを育めるよう、高校の特色化・魅力化についての議論を進める必要があります。
- また、高校の統合を含めた学級減への対応を行う場合には、引き続き、丁寧に議論を進める必要があります。しかし、募集停止や統合を行う場合にあっては、中学生が進路選択を行うまでには、高校3年生の時点で新入生が入ってこなくなる状況等を周知しておく必要があることから、遅くともその3年前には、当協議会の方向性を示す必要があります。
- 以上のことから、令和8年度から令和11年度に想定される5学級程度の減少への対応については、これまでの協議をふまえ、次のとおりとします。

【令和8年度】

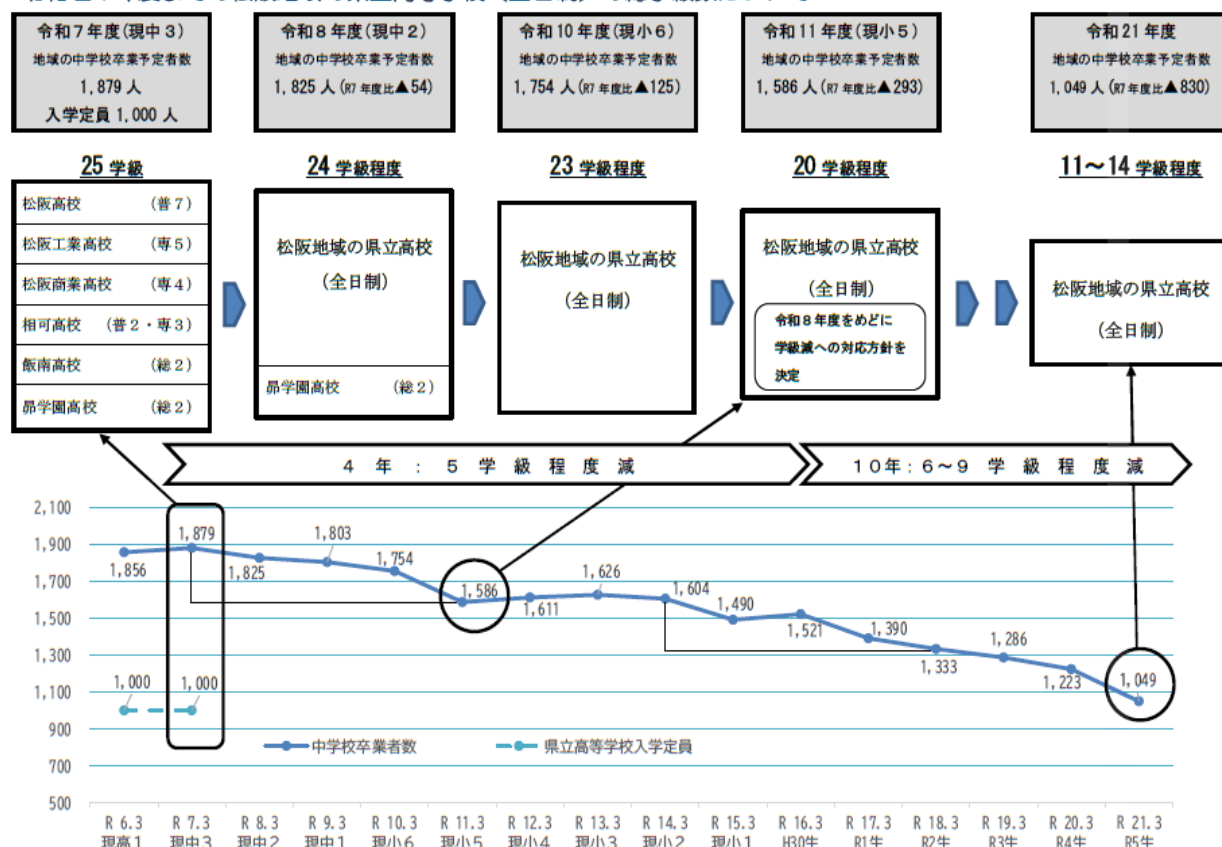
○令和8年度に見込まれる1学級減への対応については、「3 今後の学びと配置のあり方について」の方針となる「基本的な考え方」や「再編を検討するうえで大切にしたいこと」をふまえるとともに、中学生の進路選択に大きな影響を及ぼすことがないよう、統合ではなく、学級減で対応することが望ましい。

【令和10年度・令和11年度】

○2か年で4学級程度と大幅な減少が見込まれることから、「3 今後の学びと配置のあり方について」の方針に加え、次期計画の策定の議論も注視しながら、現計画に基づき再編も含めて協議を進め、令和8年度までに段階的に協議会の方向性を取りまとめる。

<参考：第2回松阪地域高等学校活性化推進協議会資料より>

令和21年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について



松阪地域 中学校卒業生数の推移と予測(含社会増減)

令和8年5月1日 教育政策課調べ

	R 5.3 卒業	R 6.3 卒業	R 7.3 卒業	R 8.3 卒業	R 9.3 現中3	R 10.3 現中2	R 11.3 現中1	R 12.3 現小6	R 13.3 現小5	R 14.3 現小4	R 15.3 現小3	R 16.3 現小2	R 17.3 現小1
松阪市	卒業者数	1,457	1,467	1,446	1,390	1,441	1,331	1,226	1,200	1,249	1,213	1,143	999
	前年度対比		10	-21	-56	51	-110	-105	-26	49	-36	47	-144
	R8.3対比					51	-59	-164	-190	-141	-177	-247	-391
多気郡	卒業者数	477	389	433	421	359	429	345	411	380	389	380	357
	前年度対比		-88	44	-12	-62	70	-84	66	-31	9	-9	-23
	R8.3対比					-62	8	-76	-10	-41	-32	-41	-64
小計	卒業者数	1,934	1,856	1,879	1,811	1,800	1,760	1,571	1,611	1,629	1,602	1,523	1,356
	前年度対比		-78	23	-68	-11	-40	-189	40	18	-27	38	-167
	R8.3対比					-11	-51	-240	-200	-182	-209	-288	-455
県内合計	卒業者数	16,055	15,891	15,718	15,511	15,303	14,834	14,377	14,011	14,032	13,398	12,753	11,764
	前年度対比		-164	-173	-207	-208	-469	-457	-366	21	-634	-645	-656
	R8.3対比					-208	-677	-1,134	-1,500	-1,479	-2,113	-3,091	-3,747

【県立高校（全日制）】

松阪地域	入学定員 (学級数)	1,040 (26)	1,000 (25)	1,000 (25)	1,000 (25)	7/7 公表
	欠員数※	17	14	5	52	-
	入学定員 (学級数)	10,640 (268)	10,440 (263)	10,240 (258)	10,000 (252)	7/7 公表
県内合計	欠員数※	342	225	186	411	-

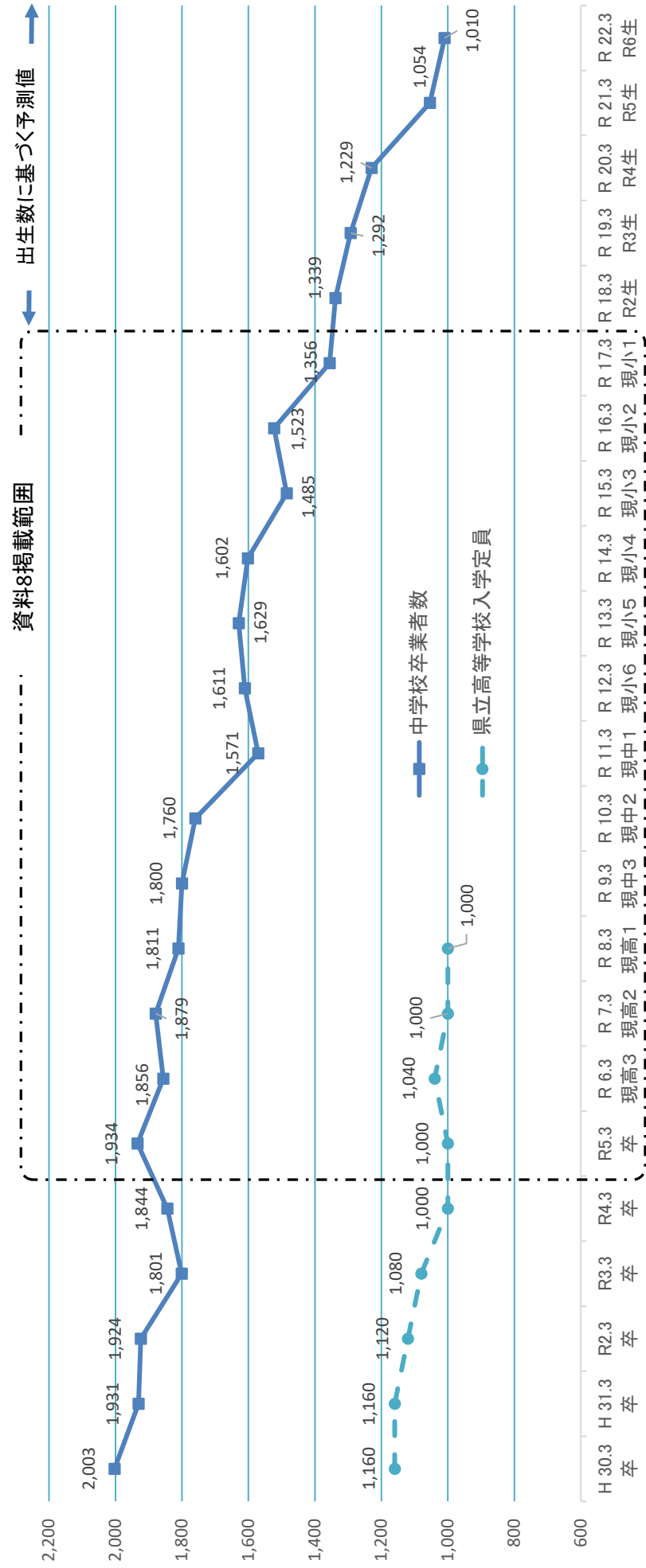
※伊賀白鳳高校は定員240人6学級規模を7学級、尾鷲高校は定員160人4学級規模を5学級として編制
 ※欠員数は、学科・コースごとの欠員のみを積み上げた数値

【私立高校（全日制）】

三重	入学定員	535	530	530	530	7/7公表
	入学者数	584	468	530	558	-

※入学者数は、三重県公立高等学校協議会の記載人数を転記。

松阪地域の中学校卒業業者数と県立高等学校入学定員(全日制)の推移と予測



※出生数に基づく予測値(令和2から令和6年度生まれを対象としたもの)は、昨年度時点のデータに基づいて作成しております。令和7年度の出生数が判明次第、資料を改めて提示いたします。

【松阪地域の出生数】

	R2年度生	R3年度生	R4年度生	R5年度生	R6年度生
	5～6歳	4～5歳	3～4歳	2～3歳	1～2歳
松阪市	1,089	1,018	979	856	832
多気郡	264	281	259	209	191
合 計	1,353	1,299	1,238	1,065	1,023
予測値	1,339	1,292	1,229	1,054	1,010

松阪地域および伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて(令和8年度)

資料10 (再掲)

松阪地域全日課程	学校名	大学科	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
				普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	全25学級 普通科 9 専門学科 12 (工業5) (商業4) (農業2) (家庭1) 総合学科 4
県立	松阪高校	普通科	280	工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科			
	松阪工業高校	専門学科	200	総合ビジネス科	総合ビジネス科	総合ビジネス科	国際ビジネス科				
	松阪商業高校	専門学科	160	郷土・環境、介護福祉 総合進学、コンピュータ							
	飯南高校	総合学科	80								
	相可高校	普通科 専門学科	200		普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科			
私立	鼎学園高校	総合学科	80	地域探究、総合スポーツ 美術工芸、生活福祉、環境技術							
	三重高校	普通科	530	普通科(ステラコース《特進クラス、選抜クラス》・ナビスコース《進学クラス、アスリートクラス》、六年制)							

○定時制課程 県立 松阪工業高校 40人 普通科

○通信制課程 県立 松阪高校 200人 普通科

伊勢志摩地域全日課程	学校名	大学科	入学定員	1	2	3	4	5	6	7	8
				普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース	全28学級 普通科 13 専門学科 14 (工業4) (商業4) (農業2) (家庭1) (福祉1) (水産2) 総合学科 1
県立	宇治山田高校	普通科	160	普通科	普通科	普通科	普通科				
	伊勢高校	普通科	280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
	伊勢工業高校	専門学科	160	機械科	機械科	建築科	電気科				
	宇治山田商業高校	専門学科	160	商業科	商業科	情報処理科	国際科				
	明野高校	専門学科	160	生産科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科				
	南伊勢高校 度会校舎	普通科	40	普通科							
	鳥羽高校	総合学科	40	総合学科							
	志摩高校	普通科	40	普通科							
私立	水産高校	専門学科	80	海洋・機関科	水産資源科						
	皇学館高校	普通科	315	普通科(特別進学コース、進学コース)							
	伊勢学園高校	普通科	230	普通科(特別進学コース、選択コース[情報ビジネス・生活デザイン・進学※]、看護医療コース)							※2年次からの選択コース

○定時制課程 県立 伊勢まなび高校 120人 普通科:午前の部40人、午後の部40人、ものづくり工学科40人(夜間)

○通信制課程 私立 英心高校(伊勢本校) 110人 普通科:(全日制、水曜、土曜の各コース)

私立 代々木高校 400人 普通科:(通学コース、通信一般コース等)

○高等専門学校 国立 鳥羽商船高等学校 140人 商船学科(40)、情報機械システム工学科(100)

※大学の普通科には普通科系専門学科を含む

※令和9年度版は、第2回協議会にて改めて提示します。

松阪地域の全日制高校の学びの配置状況（令和8年度）

資料111（再掲）

学校名	学科	松阪地域の学び					その他
		普通	工業	商業	農業	家庭	
松阪	普通（7）	普通（5） 理数（2）					
松阪工業	工業（5）		工業化学（1） 機械（1） 繊維デザイン（1） 自動車（1） 電気工学（1）				
松阪商業	商業（4）			総合ビジネス（3） 国際ビジネス（1）			
相可	普通（2） 農業（2） 家庭（1）	普通（2）			生産経済（1） 環境創造（1）	食物調理（1）	
飯南	総合（2）	総合進学		コンピュータ	郷土・環境		介護福祉
昴学園	総合（2）	地域探究			環境技術		総合スポーツ 美術工芸 生活福祉

【備考】

○（ ）内は学級数を示す

○ 飯南高校と昴学園高校は総合学科の系列のため学級数とはカウントしない。開設科目により、近い学科に分類

○ 学級数は1学年あたりで、1学級40人ベースの学級数として表示

※ 令和9年度版は、第2回協議会にて改めて提示します。

松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和8年3月卒)

資料 1 2

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪	普通 理数	290	3	6	1	17	317
		91.5%	0.9%	1.9%	0.3%	5.4%	100.0%
松阪工業	工業	20	9	22	135	0	186
		10.8%	4.8%	11.8%	72.6%	0.0%	100.0%
松阪商業	商業 国際	57	8	31	51	4	151
		37.7%	5.3%	20.5%	33.8%	2.6%	100.0%
飯南	総合	2	0	12	36	3	53
		3.8%	0.0%	22.6%	67.9%	5.7%	100.0%
相可	普通	43	10	19	4	2	78
		55.1%	12.8%	24.4%	5.1%	2.6%	100.0%
	農業 家庭	7	5	23	74	5	114
		6.1%	4.4%	20.2%	64.9%	4.4%	100.0%
昂学園	総合	16	2	22	20	1	61
		26.2%	3.3%	36.1%	32.8%	1.6%	100.0%

普通科計 (理数科含む)	333	13	25	5	19	395
	84.3%	3.3%	6.3%	1.3%	4.8%	100.0%
専門学科計	84	22	76	260	9	451
	18.6%	4.9%	16.9%	57.6%	2.0%	100.0%
総合学科計	18	2	34	56	4	114
	15.8%	1.8%	29.8%	49.1%	3.5%	100.0%
合計	435	37	135	321	32	960
	45.3%	3.9%	14.1%	33.4%	3.3%	100.0%

※上段は人数、下段は卒業者数に対する割合を表す

※「四年制大学」は大学校を含む

※「短大」は高専を含む

※「その他」は進学待機を含む

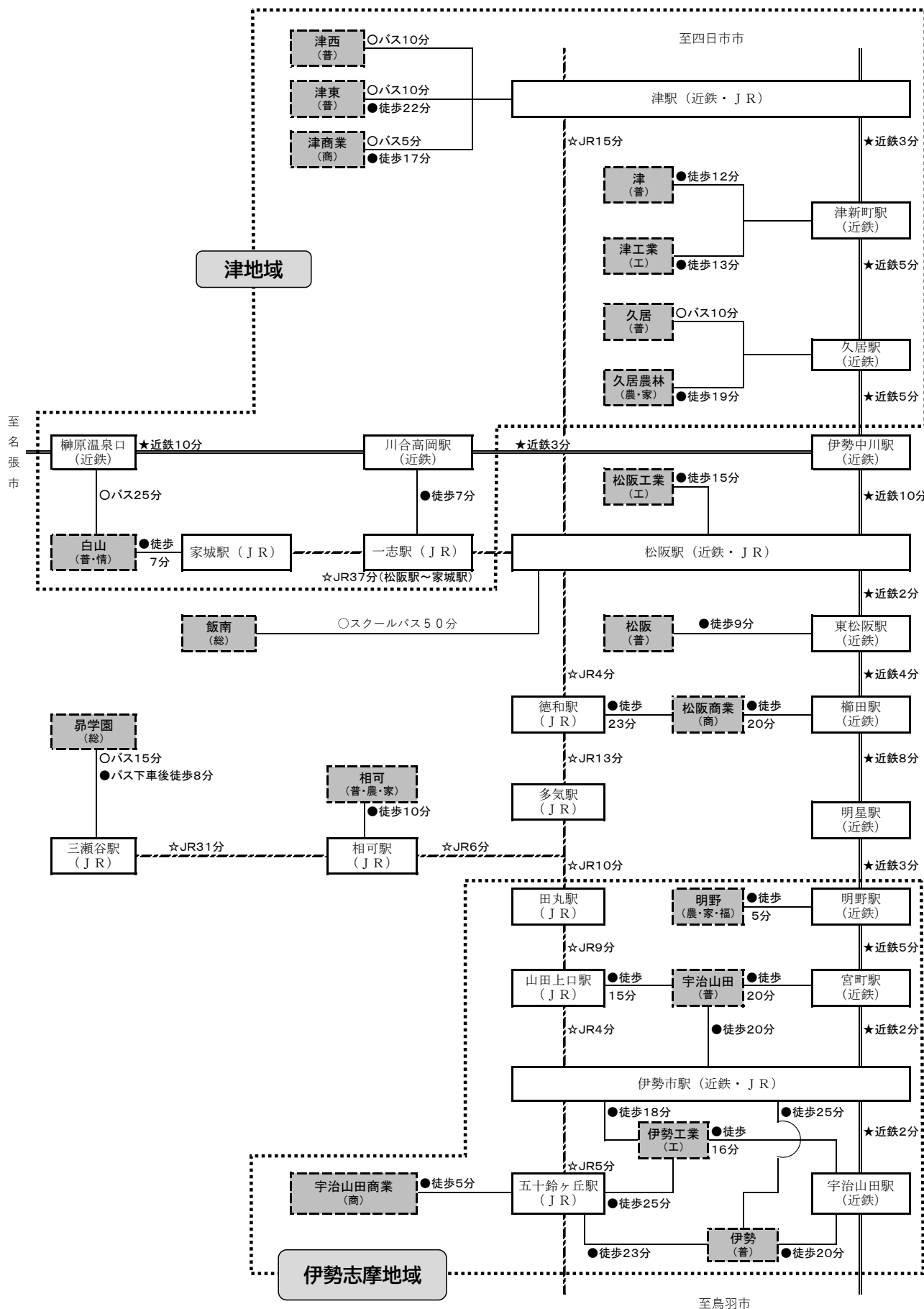
松阪地域の県立高校卒業生(全日制)の進路状況(令和7年3月卒)

学校名	学科	四年制大学	短大	専門学校等	就職	その他	卒業者数
松阪	普通 理数	248	2	3	1	17	271
		91.5%	0.7%	1.1%	0.4%	6.3%	100.0%
松阪工業	工業	29	13	18	130	3	193
		15.0%	6.7%	9.3%	67.4%	1.6%	100.0%
松阪商業	商業	35	9	55	53	4	156
		22.4%	5.8%	35.3%	34.0%	2.6%	100.0%
飯南	総合	2	6	15	41	2	66
		3.0%	9.1%	22.7%	62.1%	3.0%	100.0%
相可	普通	32	13	27	8	0	80
		40.0%	16.3%	33.8%	10.0%	0.0%	100.0%
	農業 家庭	7	4	11	79	1	102
		6.9%	3.9%	10.8%	77.5%	1.0%	100.0%
昂学園	総合	15	3	15	23	4	60
		25.0%	5.0%	25.0%	38.3%	6.7%	100.0%

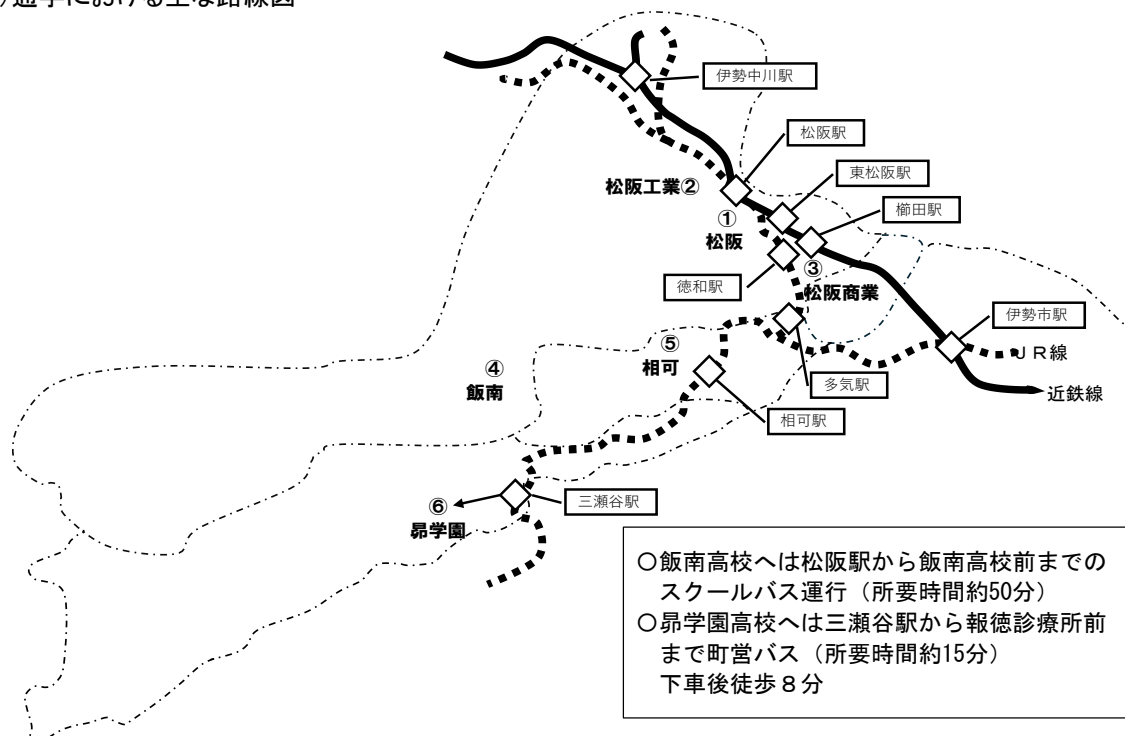
普通科計 (理数科含む)	280	15	30	9	17	351
	79.8%	4.3%	8.5%	2.6%	4.8%	100.0%
専門学科計	71	26	84	262	8	451
	15.7%	5.8%	18.6%	58.1%	1.8%	100.0%
総合学科計	17	9	30	64	6	126
	13.5%	7.1%	23.8%	50.8%	4.8%	100.0%
合計	368	50	144	335	31	928
	39.7%	5.4%	15.5%	36.1%	3.3%	100.0%

県立高等学校(全日制)への通学時間の目安

資料13(再掲)



(1)通学における主な路線図



(2)通学方法別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校基本調査より

学校名		松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昴学園	合計
通学方法								
徒歩のみ		19	21	7	1	17	150	215
		2.3%	3.6%	1.5%	0.5%	3.0%	81.5%	7.5%
自転車のみ		383	285	223	26	168	5	1,090
		45.6%	48.4%	47.6%	12.6%	29.4%	2.7%	38.1%
JRのみ		4	56	7	0	77	0	144
		0.5%	9.5%	1.5%	0.0%	13.5%	0.0%	5.0%
私鉄のみ		192	92	24	0	0	0	308
		22.9%	15.6%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%
バスのみ		35	16	0	108	86	7	252
		4.2%	2.7%	0.0%	52.2%	15.0%	3.8%	8.8%
船のみ		0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
JRと	私鉄	10	0	0	0	3	0	13
		1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.5%
	バス	1	5	0	1	31	19	57
		0.1%	0.8%	0.0%	0.5%	5.4%	10.3%	2.0%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
私鉄と	自転車	72	44	52	2	57	0	227
		8.6%	7.5%	11.1%	1.0%	10.0%	0.0%	7.9%
	バス	7	2	0	6	48	0	63
		0.8%	0.3%	0.0%	2.9%	8.4%	0.0%	2.2%
私鉄と	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	自転車	104	56	120	0	5	0	285
バスと		12.4%	9.5%	25.6%	0.0%	0.9%	0.0%	10.0%
	船	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
バスと	自転車	7	5	20	48	32	3	115
		0.8%	0.8%	4.3%	23.2%	5.6%	1.6%	4.0%
船と	自転車	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他 (車送迎、3つ以上の交通機関等)		5	7	15	15	48	0	90
		0.6%	1.2%	3.2%	7.2%	8.4%	0.0%	3.1%
合計		839	589	468	207	572	184	2,859

(3) 通学費用別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校実態調査より

費用 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
不要	405	313	243	40	216	155	1,372	1,372
	48.3%	53.1%	51.9%	19.3%	37.8%	84.2%	48.0%	48.0%
3,000円以内	37	15	9	1	6	7	75	1,447
	4.4%	2.5%	1.9%	0.5%	1.0%	3.8%	2.6%	50.6%
5,000円以内	213	121	111	2	49	12	508	1,955
	25.4%	20.5%	23.7%	1.0%	8.6%	6.5%	17.8%	68.4%
7,000円以内	73	75	59	1	66	0	274	2,229
	8.7%	12.7%	12.6%	0.5%	11.5%	0.0%	9.6%	78.0%
9,000円以内	29	25	20	4	73	2	153	2,382
	3.5%	4.2%	4.3%	1.9%	12.8%	1.1%	5.4%	83.3%
11,000円以内	23	11	9	9	71	5	128	2,510
	2.7%	1.9%	1.9%	4.3%	12.4%	2.7%	4.5%	87.8%
13,000円以内	19	8	9	1	30	3	70	2,580
	2.3%	1.4%	1.9%	0.5%	5.2%	1.6%	2.4%	90.2%
15,000円以内	22	13	6	79	32	0	152	2,732
	2.6%	2.2%	1.3%	38.2%	5.6%	0.0%	5.3%	95.6%
15,001円以上	18	8	2	70	29	0	127	2,859
	2.1%	1.4%	0.4%	33.8%	5.1%	0.0%	4.4%	100.0%
合計	839	589	468	207	572	184	2,859	2,859

※通学費用は1か月あたりの費用

(4) 通学時間別生徒数と割合

R8. 5. 1 学校実態調査より

時間 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計	積み上げ
15分以内	195	124	34	24	65	151	593	593
	23.2%	21.1%	7.3%	11.6%	11.4%	82.1%	20.7%	20.7%
30分以内	269	190	163	22	127	10	781	1,374
	32.1%	32.3%	34.8%	10.6%	22.2%	5.4%	27.3%	48.1%
45分以内	196	134	146	32	141	8	657	2,031
	23.4%	22.8%	31.2%	15.5%	24.7%	4.3%	23.0%	71.0%
60分以内	134	93	73	77	120	9	506	2,537
	16.0%	15.8%	15.6%	37.2%	21.0%	4.9%	17.7%	88.7%
90分以内	32	37	45	50	92	4	260	2,797
	3.8%	6.3%	9.6%	24.2%	16.1%	2.2%	9.1%	97.8%
120分以内	10	6	7	2	18	2	45	2,842
	1.2%	1.0%	1.5%	1.0%	3.1%	1.1%	1.6%	99.4%
121分以上	3	5	0	0	9	0	17	2,859
	0.4%	0.8%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.6%	100.0%
合計	839	589	468	207	572	184	2,859	2,859

※通学時間は片道の所要時間

(5) 自宅外通学生徒数

R8. 5. 1 学校実態調査より

種別 \ 学校名	松阪	松阪工業	松阪商業	飯南	相可	昂学園	合計
下宿	7	9	2	0	12	0	30
寄宿舎	0	0	0	0	0	143	143
合計	7	9	2	0	12	143	173

学校規模と教育環境について

1 教員数

(1) 教職員定数

各学校に配置される教職員定数の標準は、法律により、入学定員（÷学級数）に応じて定められています。

全日制普通科の場合

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
教員数 (人)	8	15	23	29	35	43	48	52
差		7	8	6	6	8	5	4

※ 校長、教頭、養護教諭、実習助手、事務職員を除く

※ 上記以外に学科による加算や加配教員、非常勤講師等の配置があります

※ あくまで標準であり、すべての学校がこの人数に一致するわけではありません

(2) 学級数別の各教科担当教員の配置シミュレーション（全日制普通科）

1 学年 あたりの 学級数	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級
計	8	15	23	29	35	43	48	52
国語	1	2	4	5	5	7	7	8
数学	2	3	4	5	6	7	8	9
英語	2	3	4	5	6	7	8	9
社会	1	2	3	4	5	6	6	7
理科	1	2	3	4	5	6	7	8
保体	1	2	3	3	4	5	6	6
芸術	0	1	1	1	2	3	3	3
家庭	0	0	1	1	1	1	1	1
情報	0	0	0	1	1	1	1	1

※ 1～7 学級の教科別教員数については、県内の 8 学級の高校の教科別教員数を参考に算出

※ 国語・数学・英語は学年あたりの配置人数が 1、2、3 人で色分け

※ 社会は地歴科と公民科から構成しており、地歴科では日本史、世界史、地理を専門とする教員を 5 人、公民科では 1 人を配置できる 6 人と、地歴 3 人、公民 1 人を配置できる 4 人で色分け

※ 理科は物理、化学、生物を専門とする教員が 2 人ずつ配置できる 6 人と、1 人ずつの 3 人で色分け

※ 保健体育は学年あたりの人数が 2 人、1 人で色分け

※ 芸術は音楽、美術、書道の教員が 1 人ずつ配置できる 3 人で色分け

※ この表はシミュレーションであり、実際は学校ごとに教育課程などが異なるため、教員数の合計、教科別の人数ともこのとおりとは限りません。

2 部活動

R4学校規模別部活動設置状況（男子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	硬式野球	53	98.1%	1,393	2	7	2	8	12	7	8	7
2	バスケットボール	47	87.0%	918	1	6	2	8	10	5	8	7
3	陸上競技	46	85.2%	824	2	4	2	7	10	6	8	7
4	卓球	42	77.8%	682	1	4	2	5	10	5	8	7
5	バドミントン	41	75.9%	1,130	0	6	0	6	11	4	7	7
6	サッカー	39	72.2%	1,515	0	2	2	5	10	5	8	7
7	テニス	34	63.0%	513	0	2	2	4	8	4	8	6
8	バレーボール	33	61.1%	627	1	2	0	5	7	4	7	7
9	ソフトテニス	31	57.4%	518	1	4	0	6	5	4	5	6
10	剣道	27	50.0%	177	0	0	1	4	5	5	5	7
11	ハンドボール	20	37.0%	472	0	0	0	1	4	4	5	6
12	柔道	20	37.0%	146	1	1	0	2	8	1	3	4
13	弓道	19	35.2%	348	0	0	1	4	5	3	5	1
14	山岳（ワグ・フューゲル）	12	22.2%	148	0	0	0	2	1	2	3	4
15	ラグビー	10	18.5%	207	0	0	0	1	3	1	2	3
16	水泳	10	18.5%	87	0	0	0	3	1	0	2	4
17	ダンス	9	16.7%	39	0	0	0	0	4	1	2	2
18	レスリング	7	13.0%	53	0	1	0	1	4	0	1	0
19	軟式野球	6	11.1%	104	0	0	0	0	1	1	2	2
20												
設置部活動の種類（～No.19）					7	11	8	18	19	17	19	18
設置部活動の全種類					7	15	9	22	28	23	26	22

R4学校規模別部活動設置状況（文化部）

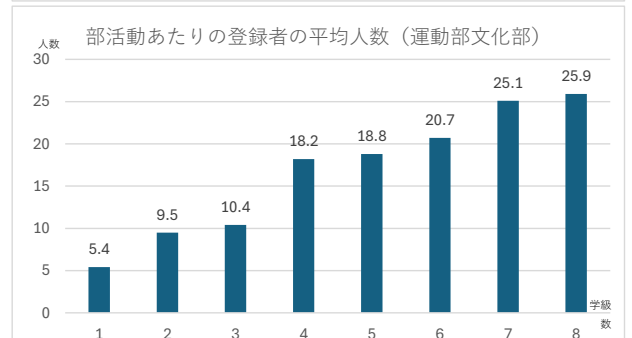
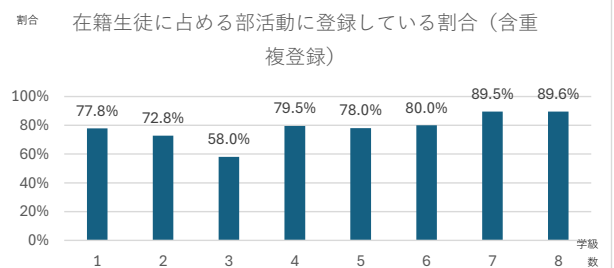
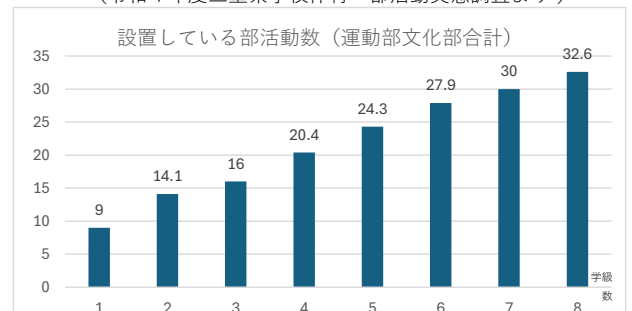
第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	美術	47	87.0%	634	0	5	2	8	10	7	8	7
2	吹奏楽	44	81.5%	1,347	1	2	1	8	11	6	8	7
3	茶道	38	70.4%	536	1	4	2	5	8	5	7	6
4	書道	36	66.7%	351	0	2	2	5	9	5	6	7
5	放送	31	57.4%	308	0	1	0	4	9	5	7	5
6	写真	24	44.4%	586	0	2	0	4	6	6	4	2
7	家庭	19	35.2%	310	2	3	2	3	3	2	2	2
8	演劇	19	35.2%	214	0	0	0	2	5	3	4	5
9	ボランティア	13	24.1%	205	0	3	1	1	3	3	1	1
10	華道	13	24.1%	136	0	1	1	2	4	3	2	0
11	コンピュータ	11	20.4%	147	1	1	0	1	3	2	2	1
12	文芸	11	20.4%	106	0	1	0	0	0	2	3	5
13	アニメ・漫画	10	18.5%	197	0	1	0	0	3	2	3	1
14	人権サークル	10	18.5%	44	0	0	1	2	3	2	2	0
15	調理	9	16.7%	236	0	0	0	1	2	1	2	3
16	英語	9	16.7%	101	0	2	0	1	2	0	1	3
17	合唱	9	16.7%	64	0	0	0	1	2	1	4	1
18	新聞	8	14.8%	67	0	0	0	0	3	2	2	1
19	邦楽	7	13.0%	91	0	1	0	0	1	0	0	5
20	自然科学	7	13.0%	47	0	0	0	1	1	0	2	3
設置部活動の種類（～No.20）					4	14	8	16	19	17	19	18
設置部活動の全種類					4	19	9	30	37	33	32	31

R4学校規模別部活動設置状況（女子）マネージャー含む

第1学年学級数					1	2	3	4	5	6	7	8
学校数					2	7	2	9	12	7	8	7
No	競技・種目	設置 学校数	設置 割合	登録 人数								
1	陸上競技	41	75.9%	486	1	3	1	6	9	6	8	7
2	バドミントン	39	72.2%	913	0	5	0	7	10	4	6	7
3	バスケットボール	39	72.2%	575	2	2	0	5	10	6	7	7
4	卓球	37	68.5%	334	0	1	2	5	8	6	8	7
5	バレーボール	34	63.0%	533	1	1	0	5	7	6	7	7
6	テニス	29	53.7%	316	0	1	1	3	5	6	7	6
7	ソフトテニス	28	51.9%	279	1	3	0	5	5	5	4	5
8	剣道	25	46.3%	135	0	0	1	2	4	5	6	7
9	弓道	17	31.5%	334	0	0	1	3	5	2	5	1
10	ハンドボール	15	27.8%	255	0	0	0	0	3	3	4	5
11	ダンス	12	22.2%	403	0	0	0	0	5	1	3	3
12	ソフトボール	12	22.2%	188	0	0	0	2	3	3	2	2
13	柔道	12	22.2%	38	0	0	0	1	4	2	1	4
14	水泳	10	18.5%	54	0	0	0	3	0	1	2	4
15	硬式野球	9	16.7%	24	0	1	0	1	3	3	0	1
16	サッカー	7	13.0%	93	0	1	0	0	2	0	1	3
17	体操	5	9.3%	66	0	0	0	1	1	0	1	2
18	空手道	5	9.3%	57	0	0	0	0	0	1	2	2
19	山岳（ワグ・フューゲル）	5	9.3%	31	0	0	0	1	1	0	0	3
20												
設置部活動の種類（～No.19）					4	9	5	15	17	16	17	19
設置部活動の全種類					4	11	6	17	25	21	25	21

○1学年あたりの学級数別の部活動の状況

（令和4年度三重県学校体育・部活動実態調査より）



令和 22 年度までの松阪地域の県立高等学校（全日制）の総学級数について

令和 8 年度（現高 1）
地域の中学校卒業生数
1,811 人

令和 10 年度（現中 2）
地域の中学校卒業生数
1,760 人（R8 年度比 ▲51）

令和 11 年度（現中 1）
地域の中学校卒業生数
1,571 人（R8 年度比 ▲240）

令和 15 年度（現小 3）
地域の中学校卒業生数
1,485 人（R8 年度比 ▲326）

令和 22 年度
地域の中学校卒業生数
1,010 人（R8 年度比 ▲801）

25 学級

松阪高校	（普 7）
松阪工業高校	（専 5）
松阪商業高校	（専 4）
相可高校	（普 2・専 3）
飯南高校	（総 2）
昂学園高校	（総 2）

24 学級程度

松阪地域の県立高校
（全日制）

20 学級程度

松阪地域の県立高校
（全日制）
遅くとも 3 年前の令和
8 年度までに学級減へ
の対応方針を決定

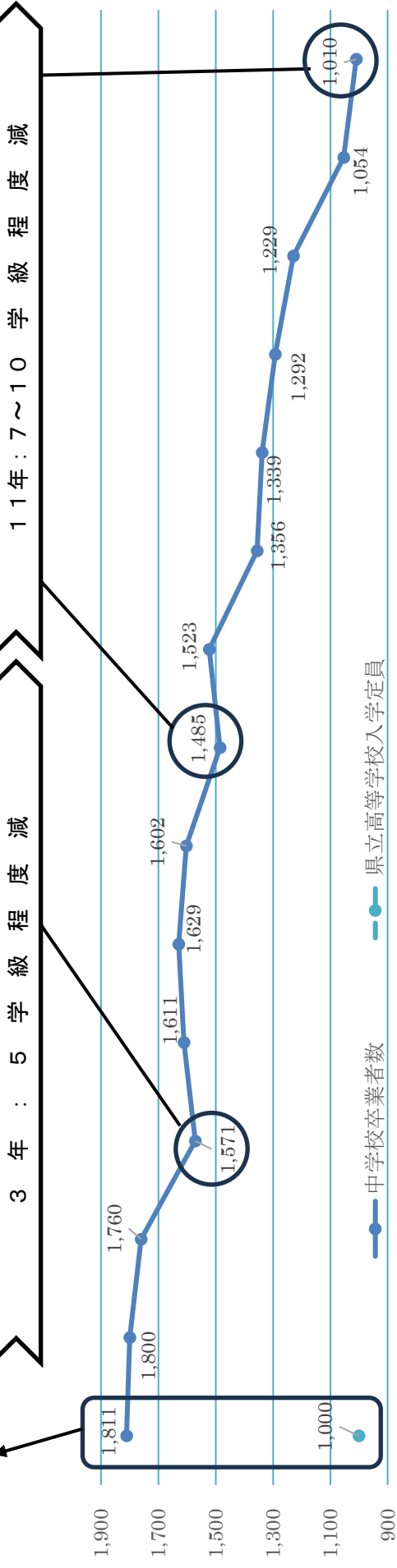
18 学級程度

松阪地域の県立高校
（全日制）

10～13 学級程度

松阪地域の県立高校
（全日制）

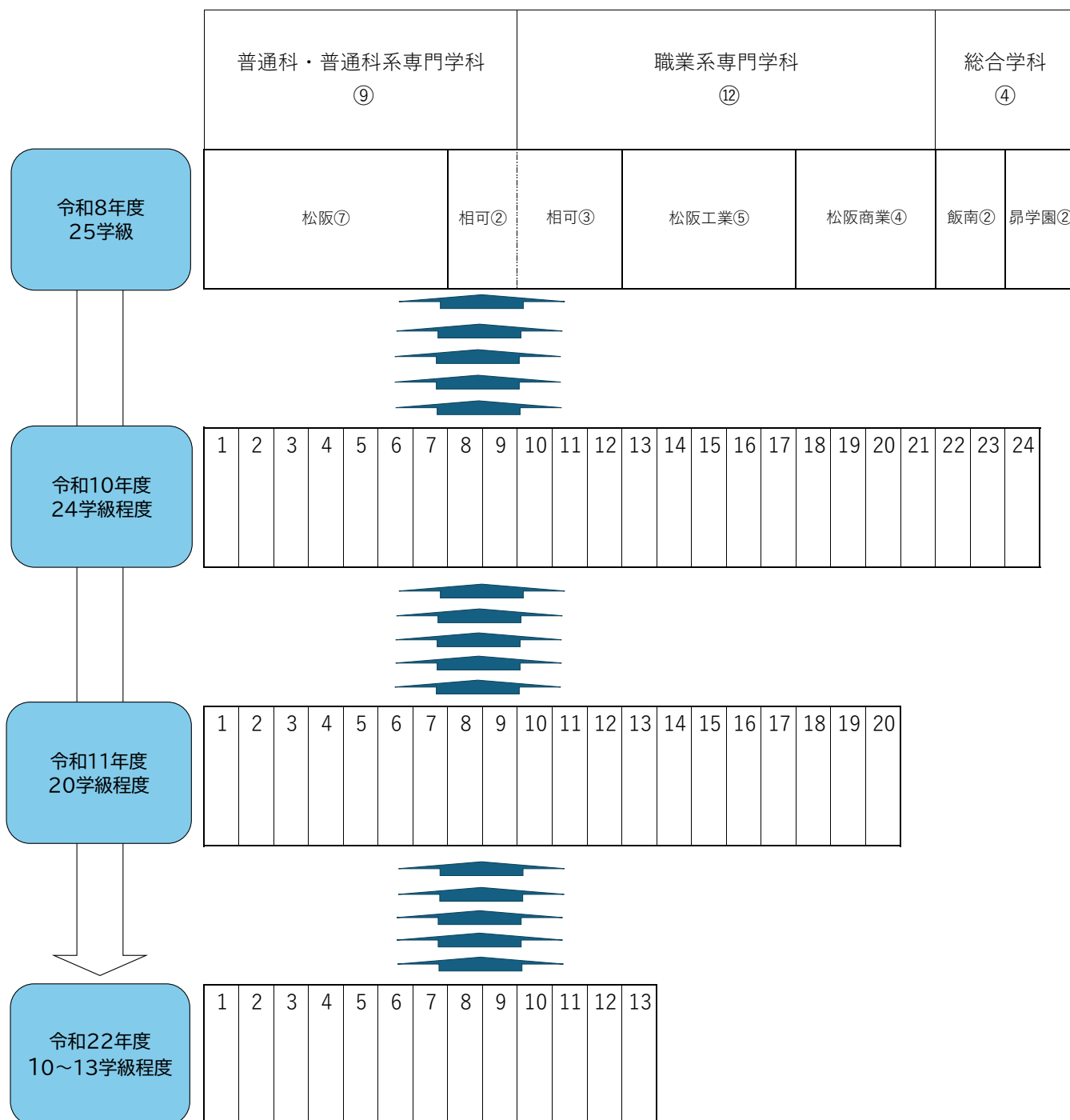
※令和 22 年度は昨年度のデータを使用。
データ更新後改めて資料提示します。



700

R8.3 現高 1 R9.3 中 3 R10.3 中 2 R11.3 中 1 R12.3 小 6 R13.3 小 5 R14.3 小 4 R15.3 小 3 R16.3 小 2 R17.3 小 1 R18.3 R2生 R19.3 R3生 R20.3 R4生 R21.3 R5生 R22.3 R6生

松阪地域の県立高校（全日制）の再編について



※ メモ欄

今後の松阪地域における高等学校の学びと配置のあり方について

地域の中学生と保護者のアンケート結果や、令和4年度から令和7年度までの協議をふまえ、以下のように整理しました。

1 学びと配置のあり方の方針(下線は前回の意見をふまえ加筆した部分)

- 多様な背景をもつ子どもたちを含め、当地域の子どもたち一人ひとりのニーズに応じた教育環境が提供されるよう、子どもたちのことを第一に考え、議論する。
- 地域の子どもたちが、地域の高校で学んでみたいと思えるよう、高校の特色化・魅力化を進める。
- 「未来を切り拓く力」や、コミュニケーション能力、課題解決能力に加え、問いを立てる力、あきらめずに困難に立ち向かう力などの資質・能力を育む教育環境を実現する。
- 地域を大切し、地域を愛する心を育むため、「地域に根差した学び」を推進する。
- 急速に社会の変化が進む中、複雑で予測が困難な時代に対応できる人材を育成するとともに、将来の松阪地域の担い手育成の視点から、小中学生に対して地元の高校から情報発信を行うなど、小中高が連携したキャリア教育を推進する。
- 進学ニーズに応える高校については、専門性の高い教員を各科目に配置するため、1学年あたり6学級を下回らないことが望ましい。
- 当地域には、農業、工業、商業、家庭の職業系専門学科が設置されており、今後も地域を支える人材を育成するため、できる限り専門学科の学びの選択肢を維持することが望ましい。
- 学校行事の充実や部活動の活性化の観点から、一定の学校規模があることが望ましい。特に部活動の活性化の観点からは、1学年あたり4学級以上あることが望ましい。
- 多様化するニーズに対応するため、全日制、定時制、通信制といった課程の枠組みにとらわれない学びのあり方を検討する。
- 通学時間は概ね90分以内、できれば60分以内となることが望ましい。また、発着時刻や運行本数など公共交通機関の利便性も考慮する。
- 老朽化や防災対策、広域での再編なども視野に、校舎の新築や建替えの議論を進める。

2 1学年あたり10～13学級となる事が想定される15年先の学びと配置のイメージ(案)

- 「1 学びと配置のあり方の方針」をふまえると、現在の6校は、大学進学ニーズに応える観点と多様な学びの選択肢を提供する観点を重視しながら3校程度へと集約されている。
- 通学環境に配慮しつつ、校舎の新築や建て替えを行い、これからの時代に必要な学びや、一人ひとりのニーズに応じた教育環境が実現している。
- これまでの課程や学科の枠組みにとらわれない、多様な学びの形態が提供されている。
-

3 15年先を見据えた令和10～11年度に想定される5学級減への具体的対応

-
-
-
-
-